



# HOKKAIDO UNIVERSITY

|                  |                                                                                   |
|------------------|-----------------------------------------------------------------------------------|
| Title            | 幕末・明治期畿内肥料市場の展開                                                                   |
| Author(s)        | 中西, 聡                                                                             |
| Citation         | 経済學研究, 47(2), 281-298                                                             |
| Issue Date       | 1997-09                                                                           |
| Doc URL          | <a href="https://hdl.handle.net/2115/32077">https://hdl.handle.net/2115/32077</a> |
| Type             | departmental bulletin paper                                                       |
| File Information | 47(2)_P281-298.pdf                                                                |



## 幕末・明治期畿内肥料市場の展開

中 西 聡

### 1. はじめに

本稿の課題は、幕末・明治期日本の肥料市場を素材として、大阪市場と畿内周辺市場との関係を解明し、ひいては日本における近代的全国市場の形成過程を明らかにすることである。

近世日本において成立した幕藩制的全国市場が三都（江戸・京都・大坂）を中心とする年貢米の商品化を基軸とした全国市場であったことは、定説化されているが、幕藩制的全国市場の崩壊から近代的全国市場の形成に関しては、様々な論争が行われてきた。

幕藩制的全国市場の崩壊に関しては、近世日本の代表的な中央市場であった大坂市場の近世後期における位置付けが議論され、古島敏雄・永原慶二は、18世紀後半から天保期（1830～44）にかけての畿内地域での農民的商品生産の進展と在郷商人の成長が、次第に大坂問屋資本の統制力を弛緩させ、幕府は天保改革により在郷商人の統制に乗り出したことを指摘した<sup>1)</sup>。安岡重明は、文化・文政期（1804～30）から天保末期にかけて大坂湊への入津量が減少し、大坂市場が19世紀前半に停滞したことを示し<sup>2)</sup>、その要因について脇田修は、領主経済の対応に求め<sup>3)</sup>、最近では斎藤善之が、それを新興海運勢力の活動の活発化から再考した<sup>4)</sup>。

以上の大坂市場停滞説に対し、津田秀夫は、幕府の江戸市場重視の政策にもかかわらず、江戸油市場より大坂油市場が優位であったことを論じ<sup>5)</sup>、松本四郎は、19世紀前半の商品集散市場としての大坂市場の地位低下を認めつつも、領主金融市場としての大坂市場の地位の高さを評価した<sup>6)</sup>。本城正徳は、領主米中央市場としての大坂の地位低下を、貢租米商品化市場と領主金融市場との分化を前提とした、中央都市商人（利貸資本）の主体的対応、及びそれと連携して諸藩サイドから行われた貢租米商品化市場の再編成過程の結果として論じた<sup>7)</sup>。また西向宏介は、19世紀前半の大坂への廻着量減少に対応する大坂問屋資本の新たな商業活動を検討し、幕末期大坂市場の商品集散市場としての機能回復の可能性を示唆した<sup>8)</sup>。さらに井上勝夫は、幕末期に雄藩が大坂市場の商業組織を再編し、領主的統一市場の形成を試みたと論じた<sup>9)</sup>。

一方近代的全国市場の形成については、1950年代までは「国内市場狹隘説」が定説化され、近代日本の国内市場の限界が議論されたが<sup>10)</sup>、

年。

- 1) 古島敏雄・永原慶二『商品生産と寄生地主制』東京大学出版会、1954年。
- 2) 安岡重明『日本封建経済政策史論』有斐閣、1959年。
- 3) 脇田修『近世都市大坂の衰退』（梅溪昇教授退官記念論文集『日本近代の成立と展開』思文閣出版、1984年）。
- 4) 斎藤善之『内海船と幕藩制市場の解体』柏書房、1994

- 5) 津田秀夫『封建経済政策の展開と市場構造』御茶の水書房、1961年。
- 6) 松本四郎『幕末・維新期における経済的集中の史的過程』（『歴史学研究』第329号、1967年）。
- 7) 本城正徳『幕藩制社会の展開と米穀市場』大阪大学出版会、1994年。
- 8) 西向宏介『幕末期姫路木綿の流通と大坂問屋資本』（『ヒストリア』第133号、1991年）。
- 9) 井上勝生『幕末維新政治史の研究』塙書房、1994年。
- 10) 小林良正『交通機関の発達と内外市場の形成＝展開（下）』（『日本資本主義発達史講座』第2部資本主義発達史、岩波書店、1932年）。

1970年代に正田健一郎が、明治期日本の消費水準の上昇を示して、国内市場の拡大を唱え<sup>11)</sup>、中村隆英も、1960年代に述べた自らの説をまとめ、明治期日本の個人消費の伸びの主要因を在来産業の発展に求め、明治期日本は近代移植産業と在来産業が国内市場に立脚して、均衡成長を遂げたと論じた<sup>12)</sup>。これらの「国内市場拡大説」に対し、石井寛治は、国内市場の拡大自体は従来の「国内市場狹隘説」でも認めており、拡大そのものに内在する日本的特質の把握が重要であるとして、地域別生産額の比較を通して産業革命期に工業地域近畿と農業地域東北を両極とする地域経済の分化が形成されたことを示した<sup>13)</sup>。また谷本雅之は幕末・明治前期の綿布国内市場拡大の要因として、農家所得水準の上昇と綿布価格の低下、新興商人と地方商人の結び付きによる新たな流通機構の形成を挙げた<sup>14)</sup>。

以上の研究史からみて、近世期の全国市場の崩壊と近代期の全国市場の形成がそれぞれ異なる論者によって別個に論じられ、両者の関連を解明する課題が残されている。特に大坂市場は近世後期に停滞が論じられる一方で、近代日本では企業勃興の中心の一つとして再び全国市場の中核的位置を占めており、大阪市場の位置付けを近世後期・近代期通して検討する必要がある。そこで本稿では、幕末・明治期の大阪肥料仲買商の経営と大阪府南部の貝塚浦の米穀肥料問屋の経営を比較しつつ(貝塚は大阪の南南西約27kmに位置、次頁の地図参照)、畿内肥料市場の展開を幕末から明治中期まで通して検討することで、残された課題の解明に迫りたい。

## 2. 大坂肥料市場の概観

大坂では干鰯商が18世紀までは盛んに仲間内で対立したが、最終的に寛政元年(1789)に「問屋」(諸国廻船から商品販売を委託されるかしくは自己責任で買い入れて仲買に販売するもの)48軒が古組、「仲買」(問屋から商品を買入れて在方商人に販売するもの)100余軒が本組として、明確に2組に分かれた。その他干鰯仲買商の中で関東組(関東積合)という別の1派があり、関東干鰯については、彼らが独占的に問屋業務を行った<sup>15)</sup>。

18世紀大坂市場での主な取引肥料は、西国産・関東産干鰯であったが、19世紀に入ると、北海道産鯊魚肥の移入量が増大したため、古組(問屋)・本組(仲買)の中で北海道産魚肥を主に扱うものがそれぞれ松前問屋・松前組を結成した。この両者は文政2年(1819)に申合をかわし、問屋は本規約に署名した仲買以外に売渡さないこと、仲買は新問屋が出来ても従来の問屋が差支えあれば買合をしないことを誓った。こうして大坂市場では、北海道産魚肥を扱う問屋・仲買仲間間で、排他的な取引関係が結ばれた。ただし仲買は、大坂以外の地域の肥料商からの買入が認められ、この排他的な取引関係は、大坂湊に荷揚げされたものに限られた<sup>16)</sup>。その後北海道産鯊魚肥の移入量はさらに増大し、古組・本組の中で松前問屋・松前組にくら替えしたものが増え、文政2年に5軒であった松前問屋は、天保12年(1841)に15軒、明治2年(1869)には24軒に増加した。13軒で結成された松前組も、文政12年には59軒に増大した<sup>17)</sup>。そして幕末期に

11) 正田健一郎『日本資本主義と近代化』日本評論社、1971年。

12) 中村隆英『戦前期日本経済成長の分析』岩波書店、1971年。

13) 石井寛治「国内市場の形成と展開」(山口和雄・石井寛治編『近代日本の商品流通』東京大学出版会、1986年)。

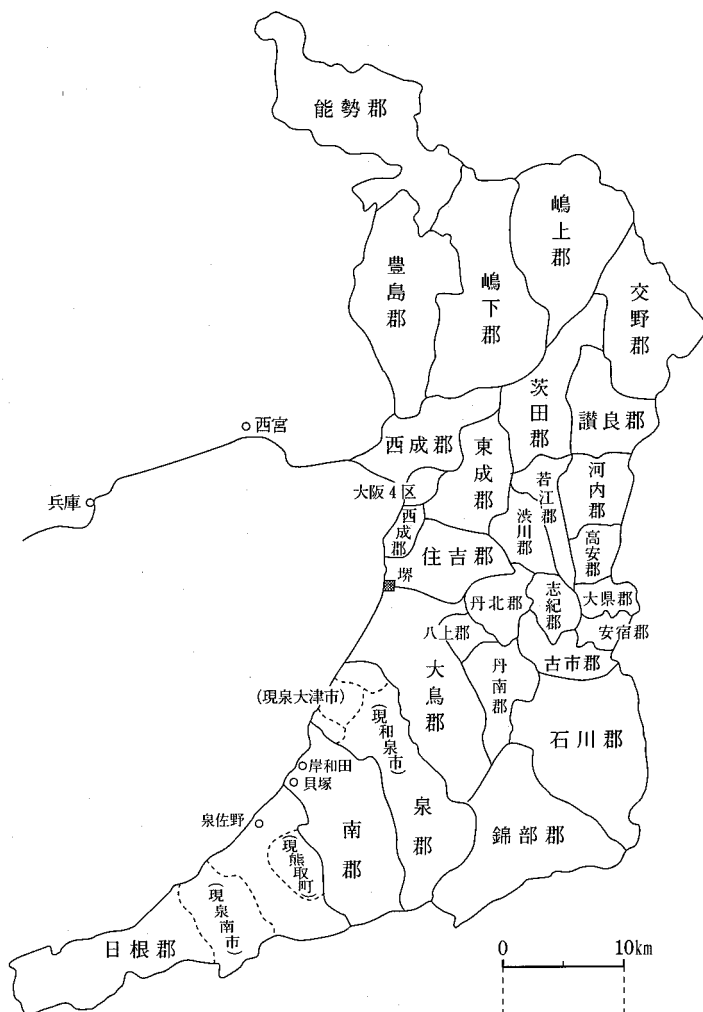
14) 谷本雅之「幕末・明治期綿布国内市場の展開」(『土地制度史学』第115号、1987年)。

15) 本稿では近世期を大坂、近代期を大阪とする。18世紀の大坂干鰯商仲間については、平川新「近世の商品流通と仲間組織」(交通史研究会編『日本近世交通史論集』吉川弘文館、1986年)及び原直史「市場と問屋・仲買」(斎藤善之編『新しい近世史3 市場と民間社会』新人物往来社、1996年)を参照。

16) 「北海産荷受問屋組合沿革史」(黒羽兵治郎編『大阪商業史料集成』第6輯、1940年、清文堂、復刻版1984年)29-32、37頁。

17) 同上、18-9、31-2、82頁。

明治前期大阪府 行政区画図



は大坂湊への魚肥移入の中心は北海道産鯊魚肥となり、その移入量は、安政3年(1856)94,860石、安政4年109,935石、安政5年86,315石、明治元年119,908石とほぼ横ばいであった<sup>18)</sup>。北海道生産量と大坂移入量を比較すると、安政初年は生産量の半分近くが大坂湊へ移入されたが、北海道生産量が増大したため、明治3年では生

産量の約3分の1が大坂に移入された<sup>19)</sup>。なお大坂では干鰯商仲間の株立が行われなかったため、天保12年の株仲間解散令の影響は少なかっ

18) 前掲「北海道荷受問屋組合沿革史」438-41頁。時期は少し下るが、明治16年の調査では、大阪に移入された魚肥の8割以上が北海道産魚肥であった(大阪市役所編『明治大正大阪市史』第7巻史料篇、1933年、清文堂、復刻版1966年、714-5頁)。

19) 安政元年時点と明治3年時点の北海道鯊魚肥生産量はそれぞれ約20万石と約30万石と推計され、明治3年時点の大坂港北海道産鯊魚肥移入量は約12万石であった(安政元年は、拙稿「場所請負商人と北前船」(吉田伸之・高村直助編『商人と流通』山川出版社、1992年)200頁より西蝦夷地・福山近在・江差近在漁獲量の合計と東蝦夷地・箱館近在漁獲量の一部を合わせて推計、明治3年は、「札幌管轄地産物出石並税金見込調」、「函館根室管轄地産物出石並税金見込調」(以上北海道立文書館蔵)、前掲「北海道荷受問屋組合沿革史」441頁より)。

た。

明治に入ると新政府は旧来の商慣行を改めるべく、明治2年(1869)11月に北海道産物を問屋仲買によらず自由取引とする布達をした<sup>20)</sup>。そのため多数の新興商人が独自の取引(勝手売買)を行い始め、市場は混乱した。それに対し旧来の大阪廻船問屋は、商業上の不正を排除する目的で明治6年に諸国荷受問屋組合を結成、旧松前問屋も加わった<sup>21)</sup>。その後商慣行の違いから明治11年に北海道産物を扱う荷受問屋は組合を脱退して別に荷受問屋一番組を結成し<sup>22)</sup>、荷受問屋一番組は翌12年に同盟仲間規則を結び、商品取扱の方法とそれに違反したものへの罰則を定めた。また仲間への加入は、信認金を納めることで原則としてだれにでも認められた<sup>23)</sup>。つまり近世期の松前問屋仲間を引き継ぐ形で、荷受問屋一番組が結成され、諸国廻船から北海道産物を引き受けて仲買商等へ販売した。

魚肥仲買商も明治6年(1873)に規則を設けて団結し、明治18年に110軒により肥物商仲間規約が結ばれた。この規約では、内外国産各種肥料を各荷受問屋或いは各地方より買入れ販売することを業とし、規則に違反・不正を行ったものへの罰則も決められた<sup>24)</sup>。荷受問屋一番組と肥物商仲間組合は、明治19年8月に定約書を交わし<sup>25)</sup>、大阪市場では荷受問屋一番組は肥料を全て肥物商仲間に販売し、肥物商仲間も直接大阪に船で移入された北海道産肥料は全て荷受問屋一番組を通して買入れることを決め、不正取引をしたものへの罰則も定めた。また文政2年(1819)の申合と同様、仲買商が大阪外から買入れすることは認められた。明治期の大阪港への鯔魚肥移入量は、明治3～33年まで10万石台を上下したが、北海道鯔魚肥生産量が明治30年まで不漁の年を除いて基本的に増大したた

め、大阪市場の相対的地位は低下した<sup>26)</sup>。

### 3. 近江屋(田中)市兵衛家の肥料取引：大坂肥料仲買商の事例

大坂の肥料仲買商の取引を近江屋(田中)市兵衛家の事例で検討する。近江屋は、史料の残存状況からみて19世紀前半に肥料商を開業したと推定される<sup>27)</sup>。表1を見よう。単位が俵で示された1,698俵の鯔魚肥の分を考慮すると、鯔魚肥の取扱量も多いが、まだ安政6年(1859)では近江屋の取扱魚肥の中心は鯔魚肥であった。販売量は大坂の肥料仲買商への販売が最も多く、ついで岸和田・貝塚等泉南地域の肥料仲買商への販売が多かった。それらは1軒あたり平均して約30～70石程度の大口販売先であった。大坂の後背地農村(摂津国西成・東成郡等)へは、市岡新田を除き1軒あたり平均して約2石程度の小口販売であり、これらの取引相手は姓がなく名前のみであり、おそらく農家＝消費者への直接販売と考えられる。

表1出所の史料では、一部の取引で販売商品名の傍らに買入先が屋号で記載されており、その屋号から判断して近江屋は魚肥のある程度の部分を大坂の肥料仲買商から買入れたと推測できる。つまり大坂の肥料仲買商は、後背地農村や畿内諸地域の肥料需要動向に応じて、互いに肥料を売買して在庫を調整していたと考えられる。それゆえ大坂市場での取引を問屋・仲間取引に限定させてしまうのは問題があり、大坂市場の多様性を考慮して、広く大坂市場を

20) 前掲「北海道荷受問屋組合沿革史」91頁。

21) 同上、123-4頁。

22) 同上、125頁。

23) 同上、136-51頁。

24) 平野茂之『大阪穀肥料市場沿革史』1941年、69-76頁。

25) 前掲「北海道荷受問屋組合沿革史」203-7頁。

26) 大阪移入量は、前掲「北海道荷受問屋組合沿革史」、441-63頁。北海道生産量は、明治0年代が約30～60万石、明治10年代が約50～70万石、明治20年代が約70～90万石と増大し、明治30年に100万石を越えたが、明治30年代は約70万石をはさんで上下した(大蔵省編『開拓使事業報告』第3編、1885年、北海道出版企画センター、復刻版1983年、『北海道庁統計総覧』北海道庁、1896年、明治29～39年度『北海道庁統計書』、明治30年度『北海道庁拓殖年報』)。

27) 田中市兵衛家文書(大阪大学経済学部経済史経営史資料室蔵、以下資料室蔵と略)。

表1 安政6年近江屋魚肥販売量販売地域先別一覧

単位:石

| 国 郡        | 町村       | 軒       | 鯿        | 鰯 (俵)       | その他 |
|------------|----------|---------|----------|-------------|-----|
| 錫屋正太郎      |          | 1       | 11       | 3 (34)      |     |
| 油屋長兵衛      |          | 1       |          | (348)       |     |
| 米屋栄次郎      |          | 1       |          | 2           |     |
| 摂津<br>摂津武庫 | 大坂<br>西宮 | 29<br>1 | 254<br>6 | 238 (689)   |     |
| 摂津西成       | 市岡新田     | 8       | 82       | 6 (241)     | 6   |
|            | 野里村      | 10      | 7        |             | 5   |
|            | 九条村      | 1       | 8        | 1           |     |
|            | 大和田村     | 2       |          | (4)         |     |
|            | 小松村      | 1       | 2        |             |     |
|            | 池田新田     | 1       | 6        |             |     |
|            | 小計       | 23      | 105      | 7 (245)     | 10  |
| 摂津東成       | 天王寺中町    | 1       |          | (5)         |     |
|            | 毛馬村      | 9       | 2        | 1 (19)      |     |
|            | 赤川村      | 1       |          | (5)         |     |
|            | 本庄村      | 3       |          | 1           |     |
|            | 小計       | 14      | 2        | 3 (29)      |     |
| 摂津豊島       | 箕輪村      | 1       | 1        |             |     |
| 河内志紀       | 田井中村     | 1       |          | (2)         |     |
| 河内高安       | 服部川村外    | 4       | 4        | (3)         |     |
| 和泉 南       | 岸和田村     | 3       | 52       | 142 (226)   |     |
| 和泉         | 貝塚町      | 2       | 43       | 2 (100)     |     |
| 和泉 泉       | 大津村      | 1       | 15       | 11 (20)     |     |
| 紀伊         | 名倉       | 1       | 1        |             |     |
|            | 柏崎新田     | 1       |          | 2 (1)       |     |
|            | 不明       | 1       |          | (1)         |     |
| 合計         |          | 85      | 493      | 409 (1,698) | 10  |

(出所) 安政6年「干鰯日記」(田中市兵衛家文書, 大阪大学経済学部経済史経営史資料室蔵, 以下資料室蔵と略)より作成。

(注) 地域の郡は明治前期の行政区分で示した。鰯魚肥には、単位が俵でのみ示されており石に換算するのが困難なものも含まれているため、その分は別に俵数で示した。石未満は四捨五入した(以下各表とも同じ)。旧国名を現府県を対照させると、摂津・河内・和泉=大阪府、紀伊=和歌山県である。なお畿内農村での魚肥施用量は、米作で1反歩につきおよそ0.2~0.25石であった(大阪府編『大阪府誌』第3編, 1903年, 思文閣, 復刻版1970年, 496頁)。

捉える必要があろう。

田中家は明治期には大阪を代表する肥料仲買商となり、当主市兵衛は明治27年(1894)の大阪肥料取引所設立運動の発起人となり、創業総会で理事長に選ばれた<sup>28)</sup>。肥料取引所は「既に組合間に延賣買の行はれつゝあるのと素人客よりの注文少なきと仲買人の少数なるとに依り存立するも到底利益を得るの見込なし」との意見が多数を占めたため、明治29年に開業を目前に控えて解散されたが<sup>29)</sup>、田中市兵衛は第四十二国

立銀行の頭取や大阪商船株式会社・日本綿花株式会社の社長を務め、明治期の大阪財界の中心人物の一人として活躍した<sup>30)</sup>。

表2を見よう。田中家の明治0年代の肥料買入先は、大阪荷受問屋と大阪肥料仲買商が多く、主に大阪市場内から肥料を買い入れた。荷受問屋とは同じ相手と継続的に取引したが、肥料仲買商とは年により取引相手の変動が激しかった。田中家は取扱肥料の根幹部分は、特定の荷受問屋から継続的に買い入れ、年々の需要動向に応じて不特定な仲買商との間で在庫調整のための買入を行ったと考えられる。肥料の内訳は、明治7年(1874)の時点では鯿魚肥の他に鰯魚肥や種粕もかなり多かったが、次第に鯿魚肥の比率が高まった<sup>31)</sup>。ただしこの表に含んだ鰯魚肥は、北海道産鰯魚肥であり、それ以外に関東産鰯魚肥を田中家は直接東京の問屋と取引し、汽船・西洋型風帆船の運賃積で東京から大阪まで輸送した。その取引量もかなり多く、明治12~18年で合計約1万9千俵に上った<sup>32)</sup>。

明治10年代後半になると田中家の肥料買入先はかなり変動し、表3で示したように同じ相手との継続的な取引はほとんど見られなかった。そして兵庫・徳島の肥料問屋・仲買からの買入も行われ、畿内肥料市場の流動化が進んだことが推測できる。肥料の内訳も、北海道産魚肥の取扱はほぼ鯿魚肥に限定され、関東産鰯魚肥との2本立てとなった<sup>33)</sup>。

田中家の肥料販売先は、明治17・18年(1884・85)に関して表4で示した。表1と比べ、この時期も大阪の肥料仲買商への販売が多く、大阪市場内での仲買商間の在庫調整目的の売買が盛んであり、それ以外には後背地農村の摂津国西成郡の村々への販売が多かった。1軒当りの販

30) 明治31年度『日本全国商工人名録』大阪府の部。

31) 明治6年「干鰯日記」(田中市兵衛家文書, 資料室蔵)。

32) 明治7年「関東調」, 明治17年「関東調」(田中市兵衛家文書, 資料室蔵)。

33) 明治6年「干鰯日記」(田中市兵衛家文書, 資料室蔵)。

28) 前掲平野茂之『大阪穀肥料市場沿革史』145頁。

29) 同上, 155-6頁。

表2 明治0年代後半田中家肥料買入量買入先別一覧

単位：石

| 買入先     | 業種     | 明治7               | 明治8              | 明治9                 | 明治10             |
|---------|--------|-------------------|------------------|---------------------|------------------|
| 金澤仁作    | 大阪荷受問屋 | 494               |                  | 84                  | 437              |
| 藤野熊蔵    | 大阪荷受問屋 | 325               |                  | 7                   | 20               |
| 片山和助    | 大阪荷受問屋 | 882               | 515              | 217                 |                  |
| 木谷与市郎   | 大阪荷受問屋 | 18                | 15               | 22                  |                  |
| 新保吉三郎   | 大阪肥料仲買 | 108               | 926              |                     |                  |
| 藤本多四郎   | 大阪荷受問屋 | 431               | 480              |                     |                  |
| 田村宗七    |        | 47                | 56               |                     |                  |
| 田中長治郎   | 大阪肥料仲買 | 59                | 11               |                     |                  |
| 板原七兵衛   |        | 6(555)            | 9                |                     |                  |
| 木谷権三郎   |        | 758               |                  |                     |                  |
| 岡本要介    | 兵庫商人   | 296               |                  |                     |                  |
| 北海道社    |        | <sup>1)</sup> 195 |                  |                     |                  |
| 瀧川伊之介   | 大阪肥料仲買 | 153               |                  |                     |                  |
| 市岡孫九郎   |        | 84                |                  |                     |                  |
| 中堂伝七    |        | 67                |                  |                     |                  |
| 江口儀三郎   | 大阪肥料仲買 | 57                |                  |                     |                  |
| 田辺卯吉    | 大阪肥料仲買 | 41                |                  |                     |                  |
| 金澤仁兵衛   | 大阪肥料仲買 | 36                |                  |                     |                  |
| 杉山喜三郎   | 大阪荷受問屋 | 34                |                  |                     |                  |
| 小田利助    | 大阪肥料仲買 | 32                |                  |                     |                  |
| 柴井弥助    | 大阪肥料仲買 | <sup>2)</sup> 23  |                  |                     |                  |
| 中野善蔵    |        | (550)             |                  |                     |                  |
| 室瀬利兵衛   |        | (500)             |                  |                     |                  |
| 今井勢兵衛   | 大阪荷受問屋 |                   | 205              |                     | 1,184            |
| 大一商社    |        |                   | <sup>3)</sup> 66 | <sup>4)</sup> (200) |                  |
| 石丸清右衛門  | 大阪肥料仲買 |                   | 59               | 6                   |                  |
| 泉 浅七    | 大阪肥料仲買 |                   | 150              |                     |                  |
| 平松九左衛門  |        |                   | 138              |                     |                  |
| 古坐谷嘉兵衛  | 大阪肥料仲買 |                   | 123              |                     |                  |
| 中江善助    | 大阪肥料仲買 |                   | 38               |                     |                  |
| 川口正太郎   | 大阪肥料仲買 |                   | 28               |                     |                  |
| 上田和三郎   |        |                   |                  | 339                 |                  |
| 伊藤吉蔵    | 大阪荷受問屋 |                   |                  | 229                 |                  |
| 山本林蔵    | 愛知常滑船主 |                   |                  | <sup>5)</sup> 225   |                  |
| 大三輪与一郎  | 大阪荷受問屋 |                   |                  | 48                  |                  |
| 川崎藤太郎   |        |                   |                  |                     | 186              |
| 鍋谷新兵衛   | 西島新田商人 |                   |                  |                     | <sup>5)</sup> 68 |
| 近江千助    | 大阪肥料仲買 |                   |                  |                     | 49               |
| その他とも合計 |        | 4,250<br>(1,605)  | 2,821            | 1,199               | 1,950            |
| 取引相手総軒数 |        | 39                | 16               | 17                  | 8                |

(出所) 明治6年「干鰯買日記」(田中市兵衛家文書, 資料室蔵)より作成。

(注) 各年とも魚肥20石以上取引した相手を示した。鰯魚肥には単位が俵でのみ示され、石への換算が困難なものもあり、それらは別に括弧書きで示した。業種欄は、平野茂之「大阪肥料市場沿革史」1941年及び「北海道荷受問屋組合沿革史」(黒羽兵治郎編『大阪商業史料集成』第6輯, 1940年, 清文堂, 複製版1984年)を参照した。明治7年は16,957玉, 明治8年は1,971玉, 明治9年は1,950玉の種粕を合計で買入れていた。

1)外に種粕11,716玉買入れ。2)外に種粕2,500玉買入れ。  
3)外に種粕1,971玉買入れ。4)種粕で単位は玉。5)田中家が買戻した分。

売量は幕末期に比較すると多く、農家への小口販売でも1軒当り2〜5石で、在郷肥料商には10〜20石の肥料を販売した。後背地農村(摂津国西成郡)への販売は明治17・18年ともに同じ

表3 明治10年代後半田中家肥料買入量買入先別一覧

単位：石

| 買入先    | 業種     | 明治15  | 明治16  | 明治17  | 明治18  |
|--------|--------|-------|-------|-------|-------|
| 千成社    | 大阪荷受問屋 | 223   | 27    | 94    | 986   |
| 栖原幸吉   | 大阪荷受問屋 | 626   | 72    |       |       |
| 前田嘉助   | 大阪荷受問屋 | 149   |       |       |       |
| 久保新吉   | 大阪荷受問屋 | 121   |       |       |       |
| 河 熊    |        | 75    |       |       |       |
| 大三輪与一郎 | 大阪荷受問屋 | 59    |       |       |       |
| 青井亀一郎  |        | 29    |       |       |       |
| 田中源七   |        | 21    |       |       |       |
| 三田伊介   |        | 3     |       |       |       |
| 喜多村高之助 | 東京肥料問屋 | (809) |       |       |       |
| 片山和助   | 大阪荷受問屋 |       | 49    |       | 116   |
| 近江千助   | 大阪肥料仲買 |       | 81    |       | 12    |
| 岸本五兵衛  | 大阪肥料仲買 |       | 132   | 82    |       |
| 西村忠兵衛  | 大阪荷受問屋 |       | 114   | 35    |       |
| 三井物産会社 | 大阪荷受問屋 |       | 1,648 |       |       |
| 永成栄助   | 大阪荷受問屋 |       | 406   |       |       |
| 久住九平   | 徳島肥料問屋 |       | 379   |       |       |
| 松本五郎   | 徳島肥料問屋 |       | 236   |       |       |
| 斎藤悦蔵   |        |       | 175   |       |       |
| 西谷嘉助   | 大阪荷受問屋 |       | 173   |       |       |
| 丹保佐吉郎  | 大阪荷受問屋 |       | 163   |       |       |
| 有馬市太郎  | 兵庫肥料仲買 |       | 107   |       |       |
| 藤野熊蔵   | 大阪荷受問屋 |       | 90    |       |       |
| 武内源右衛門 | 下福島村商人 |       | 87    |       |       |
| 菱谷清兵衛  | 大阪肥料仲買 |       |       | 1,434 |       |
| 木下武兵衛  | 大阪荷受問屋 |       |       | 283   |       |
| 金澤保助   | 大阪荷受問屋 |       |       | 64    |       |
| 小野嘉助   | 大阪肥料仲買 |       |       | 25    |       |
| 山田商店   |        |       |       |       | 507   |
| 田中勘・泉惣 | 大阪肥料仲買 |       |       |       | 24    |
| 計      |        | 1,307 | 3,939 | 2,016 | 1,645 |

(出所) 明治6年「干鰯買日記」(田中市兵衛家文書, 資料室蔵)より作成。

(注) 明治15年の括弧内は関東産干鰯で単位は俵(石への換算が困難なため俵で表示)。業種欄は、前掲平野茂之「大阪肥料市場沿革史」及び前掲「北海道荷受問屋組合沿革史」を参照した。千成社は、金澤仁作と杉村正太郎の共同経営。

村々が登場したが、和泉国・紀伊国の肥料商への販売は単発的であり、明治17年と18年ではかなり販売先も異なった。以上のように田中家の肥料販売は、①大阪肥料仲買商間の相互取引、②特定の後背地農村の在郷肥料商・農家への連年の販売、③和泉国・紀伊国の肥料商への年ごとの需要動向に応じた単発的な販売、の3つのレベルを組み合わせで行われていたと言える。

#### 4. 廣海惣太郎家の肥料取引：貝塚米穀肥料問屋の事例

大阪府南部の貝塚浦の廻船問屋の取引を廣海惣太郎家の事例で検討する。廣海家は天保6年

表4 明治17・18年田中家魚肥販売量販売地域先別一覧

単位:石

| 国 郡        | 町村    | 明治17年 |              |       | 明治18年 |              |  |
|------------|-------|-------|--------------|-------|-------|--------------|--|
|            |       | 軒     | 販売量(俵)       |       | 軒     | 販売量(俵)       |  |
| 摂津         | 大阪    | 36    | 2,017(1,338) |       | 12    | 814 (305)    |  |
| 摂津西成       | 春日出新田 | 8     | 35           | (1)   | 8     | 48           |  |
|            | 西島新田  | 10    | 116          |       | 1     | 250          |  |
|            | 沖島新田  | 3     | 66           |       | 6     | 115          |  |
|            | 市岡新田  | 4     | 40           |       | 4     | 15           |  |
|            | 申村    | 2     | 16           |       | 3     | 24           |  |
|            | 大野村   |       |              |       | 1     | 2            |  |
|            | 浜村    | 1     | 2            |       |       |              |  |
|            | 三津屋村  | 1     | 8            |       |       |              |  |
|            | 小計    | 29    | 282          | (1)   | 23    | 454          |  |
| 摂津豊島       | 箕輪村   | 4     | 14           |       | 5     | 45           |  |
|            | 江坂村   | 7     | 5            |       |       |              |  |
|            | 小計    | 11    | 19           |       | 5     | 45           |  |
| 摂津嶋下       | 岸新在   | 1     | 10           |       |       |              |  |
|            | 蔵人村   | 8     | 10           |       |       |              |  |
|            | 小計    | 9     | 19           |       |       |              |  |
| 河内若江       | 加納村   | 1     | 2            |       |       |              |  |
|            | 箕輪村   |       |              |       | 2     | 7            |  |
|            | 小計    | 1     | 2            |       | 2     | 7            |  |
| 河内河内       | 吉田村   | 1     | 2            |       |       |              |  |
| 和泉南        | 岸和田村  |       |              |       | 2     | 47           |  |
|            | 今木村   | 3     | 23           |       | 1     | 10           |  |
|            | 小計    | 3     | 23           |       | 3     | 58           |  |
| 和泉日根       | 尾崎村   |       |              |       | 4     | 67 (875)     |  |
|            | 佐野村   |       |              |       | 1     | (397)        |  |
|            | 小計    |       |              |       | 5     | 67(1,272)    |  |
| 和泉泉<br>和泉  | 観音寺村  | 1     | 14           |       |       |              |  |
|            | 堺町    | 1     | 60           |       |       |              |  |
| 紀伊名栄<br>紀伊 | 栄谷村   | 1     | 11           | (50)  |       |              |  |
|            | 名高浦   | 1     | 98           |       |       |              |  |
| 廣島         | 西地方町  | 1     | 72           | (308) | 1     | 86           |  |
|            | 不明    | 18    | 42           | (81)  | 1     | 1            |  |
|            | 合計    | 113   | 2,661(1,778) |       | 52    | 1,531(1,577) |  |

(出所) 明治16年「売日記」(田中市兵衛家文書, 資料室蔵)より作成。

(注) 鰯魚肥には, 単位が俵でのみ示されており石に換算するのが困難なものも含まれているため, その分は別に俵数で示した。濡鰯粕は重量が示していない場合があり, その場合は1本=27貫匁(重量)で換算した。

(1835)に諸色問屋を開業し、廻船業者から積荷の販売を委託され、それを仲買商へ仲介する荷受問屋経営を行った。扱い荷は主に東北・北陸米、北海道・陸奥の鰯魚肥や北海道の鯡魚肥であり、日本海沿岸で買い入れた積荷を日本海航路を利用して運んできた自分荷物積の船持商人＝北前船商人と取引した。廣海家は船主から委託された積荷の大部分を自己責任で買い入れ、畿内各地の仲買商に販売したので、本稿で

はその売買活動を検討する<sup>34)</sup>。

まず買入先の検討を行う。表5を見よう。幕末期廣海家の魚肥買入先は不明だが、慶応3・明治元年(1867・68)の動向からみて、ほぼ全て北前船商人から委託された積荷を買い入れたと思われる。取引先は陸奥国野辺地の野村・野坂家や加賀国橋立の北前船商人が主で、廣海家手船＝自己所有船が北海道・東北から直接買い入れた魚肥を扱った部分も大きく、その比率は最幕末期になるにつれて増大した。そして恒常的に取引した野村・野坂家及び手船との取引量が、元治元年(1864)以降は大部分を占めた<sup>35)</sup>。嘉永2年(1849)の同家の往来手形下付の願書に、「広海惣太郎船3反帆」とあり<sup>36)</sup>、この時点では廣海家の持船は小規模で外洋に乗り出していなかったと考えられる。その後廣海家は文久3年(1863)に20反帆の船、慶応3年に22反帆の船の往来手形の下付を願い出ており<sup>37)</sup>、最幕末期に大型船を所有し、北前船経営に乗り出すことで、大坂・兵庫の間屋・仲買による魚肥流通の独占的地位を打ち破るようになった。

明治期の魚肥買入先を表5から見ると、依然野村・野坂家との取引が多く、廣海家は野村家から手船を購入するなど密接な関係にあった<sup>38)</sup>。廣海家は北前船商人以外では主に大阪・兵庫の肥料仲買商から買い入れた。廣海家手船との取引は明治15年(1882)を最後になくなるが、廣海家最後の手船富廣丸の損益は、松方デフレの影響で明治14・15年と急速に悪化し、廣海家は明治16年に富廣丸を売却して海運経営から撤退し

34) 幕末期の廣海家の米穀取引については、赤路洋子「幕末期泉州における米穀市場」(脇田修編著『近世大坂地域の史的分析』御茶の水書房, 1980年)を参照。また北前船商人については、前掲拙稿「場所請負商人と北前船」を参照。

35) 安政6～明治5年「干鰯仕切帳」(廣海家文書, 廣海家蔵)。

36) 臨時貝塚市史編纂部編『貝塚市史』第3巻史料, 1958年, 316-7頁。

37) 万延2年「願書控」(廣海家文書, 廣海家蔵)。

38) 明治4年に28反帆の大型船を購入(前掲『貝塚市史』第3巻史料, 409頁)。

表 5 廣海家明治期魚肥買入量買入先別一覧

単位：石

| 買入先      | 出身    | 業種   | 慶応3   | 明元    | 明5    | 明8    | 明11   | 明14   | 明17   | 明20   | 明22   | 明26   | 明29   | 明33   | 明36   | 回  |
|----------|-------|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|----|
| 廣海家手船    | 和泉 貝塚 | 廻船問屋 | 80    | 767   | 1,042 | 672   | 493   | 499   |       |       |       |       |       |       |       | 8  |
| 野村治三郎    | 陸奥野辺地 | 船持商人 | 856   | 2,195 | 1,667 | 1,304 | 1,467 | 1,235 | 1,557 | 1,289 | 1,861 | 1,364 |       | 200   |       | 21 |
| 野阪勘左衛門   | 陸奥野辺地 | 船持商人 | 791   | 1,481 | 1,651 | 604   | 335   | 563   | 832   | 1,002 | 1,796 | 733   |       | 275   |       | 20 |
| 角谷喜兵衛    | 能登 黒嶋 | 船持商人 | 6     |       |       |       |       |       |       | 210   | 64    |       |       |       |       | 5  |
| 酒谷長平     | 加賀 橋立 | 船持商人 |       | 326   |       |       |       | 259   |       |       |       |       |       |       |       | 4  |
| 井上半十郎    | 越後梶屋鋪 | 船持商人 |       |       | 379   | 423   |       |       |       | 89    | 128   |       |       |       |       | 7  |
| 白藤嘉助     | 摂津 大阪 | 肥料仲買 |       |       | 140   | 56    | 776   |       |       | 112   |       |       |       |       |       | 9  |
| 政右衛門     |       | 船持商人 |       |       | 107   | 29    |       |       |       |       |       |       |       |       |       | 3  |
| 瀧川伊之助    | 摂津 大阪 | 肥料仲買 |       |       | 194   |       | 154   |       |       |       |       |       |       |       |       | 4  |
| 仁右衛門     |       | 船持商人 |       |       | 340   | 1,426 |       |       |       |       |       |       |       |       |       | 3  |
| 金澤仁兵衛    | 摂津 大阪 | 肥料仲買 |       |       |       |       | 143   |       | 252   | 146   |       |       |       |       |       | 8  |
| 岡本要助     | 摂津 兵庫 |      |       |       |       | 23    | 65    | 354   | 235   |       |       |       |       |       |       | 8  |
| 大家七平     | 加賀 瀬越 | 船持商人 |       |       |       |       |       |       | 401   | 779   | 936   | 108   |       | 553   | 931   | 12 |
| 牧口庄三郎    | 越後 荒浜 | 船持商人 |       |       |       |       |       |       |       |       | 53    |       |       |       |       | 3  |
| 風間三郎右衛門  | 越後 鬼舞 | 船持商人 |       |       |       |       |       |       | 381   | 279   |       |       |       |       |       | 6  |
| 大三輪与一郎   | 摂津 大阪 | 荷受問屋 |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       | 3  |
| 頭川善助     | 越中 高岡 | 船持商人 |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       | 3  |
| 山本伊左     | 摂津 兵庫 |      |       |       |       |       | 288   |       |       |       |       |       |       |       |       | 5  |
| 伊藤助右衛門   | 越後 鬼舞 | 船持商人 |       |       |       |       | 86    |       | 800   | 573   | 484   | 2,553 | 91    | 294   |       | 14 |
| 広海二三郎    | 加賀 瀬越 | 船持商人 |       |       |       |       | 395   |       | 716   | 1,544 | 187   |       |       | 644   | 1,883 | 11 |
| 木谷七平     | 摂津 大阪 | 肥料仲買 |       |       |       |       | 71    |       |       | 69    |       |       |       |       |       | 7  |
| 内海作兵衛    | 摂津 大阪 | 肥料仲買 |       |       |       |       | 244   | 956   | 148   | 90    |       |       |       |       |       | 10 |
| 内海清兵衛    | 摂津 大阪 | 肥料仲買 |       |       |       |       | 36    |       |       | 140   |       |       |       |       |       | 3  |
| 富村三郎吉    | 和泉 堺  |      |       |       |       |       | 273   |       | 12    | 52    |       |       |       |       |       | 4  |
| 相澤源右衛門   | 越後糸川川 | 船持商人 |       |       |       |       | 555   |       | 75    |       |       |       |       |       |       | 3  |
| 熊田源太郎    | 加賀 湊  | 船持商人 |       |       |       |       |       |       |       | 84    |       | 407   | 280   | 1,168 |       | 9  |
| 藤野嘉市     | 摂津 大阪 | 船持商人 |       |       |       |       |       | 615   | 251   | 327   | 1,620 | 547   |       |       |       | 9  |
| 辰馬蘭蔵     | 摂津 大阪 |      |       |       |       |       |       | 611   | 232   |       |       |       |       |       |       | 5  |
| 杉本喜右衛門   | 越後糸川川 | 船持商人 |       |       |       |       |       |       | 1,142 | 175   | 420   | 525   |       |       | 391   | 8  |
| 田中九右衛門   | 越後 鬼舞 | 船持商人 |       |       |       |       |       |       | 16    | 40    | 544   | 230   |       |       |       | 8  |
| 小林与右衛門   | 越後 鬼舞 | 船持商人 |       |       |       |       |       |       | 215   | 47    | 81    |       |       |       |       | 7  |
| 有馬市太郎    | 摂津 兵庫 | 肥料仲買 |       |       |       |       |       |       | 248   | 164   |       |       |       |       |       | 4  |
| 多田武右衛門   | 越後糸川川 | 船持商人 |       |       |       |       |       |       |       | 24    |       |       |       |       |       | 4  |
| 秦新七      | 摂津 大阪 | 肥料仲買 |       |       |       |       |       |       |       | 206   |       | 87    | 250   | 103   | 882   | 7  |
| 川口平三郎    | 摂津 大阪 | 船持商人 |       |       |       |       |       |       |       | 219   | 489   |       |       |       |       | 4  |
| 浜中八三郎    | 加賀 塩屋 | 船持商人 |       |       |       |       |       |       |       | 491   |       |       |       |       |       | 3  |
| 井上茂助     | 摂津 兵庫 | 米肥料商 |       |       |       |       |       |       |       |       |       | 212   | 918   | 782   | 672   | 6  |
| 田口梅太郎    | 後志 小樽 | 海産物商 |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       | 272   | 911   | 194   | 4  |
| 柴田松三     | 摂津 大阪 | 肥料仲買 |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       | 63    |       | 213   | 3  |
| 北海道直買座   |       |      |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       | 730   |       | 883   | 3  |
| その他取引相手数 |       |      | 2     | 3     | 8     | 9     | 9     | 9     | 4     | 2     | 8     | 5     | 3     | 3     | 10    |    |
| 買入量合計    |       |      | 1,929 | 5,036 | 8,479 | 5,548 | 6,398 | 6,809 | 7,750 | 8,002 | 8,468 | 8,799 | 4,282 | 6,392 | 8,633 |    |
| 内鯿魚肥     |       |      | 198   | 1,749 | 1,583 | 964   | 3,649 | 2,073 | 4,300 | 5,278 | 5,734 | 7,597 | 3,677 | 5,588 | 8,003 |    |

(出所) 慶応3～明治36年度「萬買帳」(廣海家文書、廣海家蔵)より作成。

(注) 慶応3～明治36年で現存する24年間分の「萬買帳」で3ヶ年以上取引実績のあったものを、「萬買帳」に出てきた古い順に一覧で示し、この表で選んだ年の取引量を示した。出身は文久2年「御客船名寄」・明治17年「諸国名前控」(廣海家文書)を参照。廣海家手船の欄は、手船で運んだ魚肥を本店が買い入れた形態で、神丸丸嘉七郎・福吉丸吉五郎・神楽丸儀介(幸太郎)・神通丸嘉七郎・富廣丸利右衛門の5隻が時期がずれながら「萬買帳」で見られた。業種欄は、前掲平野茂之「大阪鯿魚肥市場沿革史」等を参照した。明治11・14年に奥三郎兵衛、明治17年に小津与右衛門から関東産干鰯を、明治20・22年に貝塚肥料商から加太干鰯を買い入れたが、いずれも単位が異なり石への換算が困難なため、取引量は省略し、取引相手数には含めなかった。明治14年の買入量合計には地元肥料商から買い入れた和泉産干鰯788石を含む。40貫目(重量)=1石で換算。右端の欄は、24年間(冊)の「萬買帳」の中で取引があった年数。出身は、史料上の記載に従って旧国名で示した。現道府県と対称させると、後志=北海道、陸奥=青森県、越後=新潟県、越中=富山県、能登・加賀=石川県、摂津・和泉=大阪府である。なおいずれの年も、前年度に引き渡された越年分も当年度分として含めて集計した。

た<sup>39)</sup>。代わって明治10年代から加賀国瀬越の広海二三郎・大家七平と越後国鬼舞の北前船商人が廣海家の有力な取引相手となった。特に越後

国鬼舞の北前船商人が4軒(近隣の梶屋敷・糸魚川も合わせ8軒)も表にでてきたが、その地域で19世紀初頭から活躍した井上半十郎が<sup>40)</sup>、明治0年代に廣海家の有力な取引相手であり、その

39) 明治12年「富廣丸勘定」(廣海家文書、廣海家蔵)によれば、富廣丸の経営全体の損益は、明治12年1,423円益、13年565円益、14年2,926円損、15年3,437円損であった。

40) 柚木学編『近代海運史料』清文堂、1992年、455-7頁より推定。

地縁で同地域の北前船商人への取引関係を広げたと考えられる。加賀国瀬越の広海・大家とも長期にわたり継続して取引関係があったが、瀬越の広海二三郎家は天保期(1830~44)に貝塚の廣海家手船の雇船頭をしていた可能性があり、島根県浜田港の廻船問屋の「客船帳」には、和泉国貝塚名代として広海(浜中屋)仁三郎の船が記載されていた<sup>41)</sup>。ここでも雇用関係を通じた地縁が、広海・大家家と廣海家を結び付けた。

表5では3ヶ年以上取引実績のあったものを継続的取引相手と考えたが、継続的取引相手とその他の取引相手の軒数を比べると、明治0年代の両者の数はほぼ同じであったが、明治10年代以降前者が後者を大きく上回るようになり、特に明治10年代後半には陸奥・越後の北前船商人や大阪の肥料仲買商との継続的取引が取引量全体のうち大部分を占めた。明治18年(1885)時点の大阪肥料仲買商仲間は110軒であったが、その中で廣海家は、肥料仲買商仲間の総取締・副取締・議員であった金澤・白藤・内海清兵衛や、貝塚に米穀肥料問屋の本店があり大阪支店が大阪の肥料仲買商仲間に加盟した木谷と、長期間にわたって継続的に取引した<sup>42)</sup>。ただし全体的には明治20年前後までほぼ一貫して野村・野阪との取引が多く、両家の船の積荷が両家の地元陸奥産の鰯魚肥であったため、廣海家の取扱肥料の中心は鰯魚肥であった。明治20年代は北海道での鰯魚肥生産量の拡大もあり、鰯魚肥を主に扱った越後・加賀の北前船商人からの買入量が増大し、野村・野阪も鰯魚肥を扱い始め、廣海家の取扱肥料はほとんどが鰯魚肥になった。また明治10年代前半までは、年によって取引相手の交替が激しく、野村・野阪を除くと大阪の肥料仲買商から買入れた部分がかなりあり、明治5年には白藤・瀧川、明治11・14年

には白藤・内海作兵衛・辰馬がある程度の位置を占めた。しかし明治20年代になると、大阪の肥料仲買商は後景に退き、廣海家と10年以上にわたって連年取引関係をもった大家・伊藤・広海・熊田・藤野・杉本・田中らの北前船商人から委託販売を受けた魚肥の買入が中心となった。そして取引量の上位3家が全体の取引量に占める比率は、明治10年代は40%台であったが、明治20年代になると60%前後を占めた。

その後廣海家は明治20年代末~30年代初頭に取引量を急減させた。明治20~30年代は全国で汽船定期航路網や電信網が整備され、和船自分荷物積船を取引相手とした廻船問屋は大きな打撃を受けた<sup>43)</sup>。むろん明治期に新たに西洋型風帆船を購入して自分荷物積経営を拡大した熊田源太郎のような北前船商人もおおり<sup>44)</sup>、国内海運において自分荷物積形態から汽船運賃積(他人荷物積)形態への転換が一方的に進んだわけではなく、廣海家も熊田との取引量を増大させて全体の取引量の減少をくいとめた。しかしある程度経営方針の転換を迫られたと思われ、明治27年(1894)以降北海道小樽の海産物商田口梅太郎ら北海道商人から直接魚肥を買い付けるようになり、大阪・兵庫の肥料仲買商からの買入も増大させ、明治30年代後半には再び全体の取引量を増大させた。しかし廣海家と北前船商人との継続的な取引関係は、明治20年代までは見られたものの、明治30年代に入ると取扱量の減少とともに部分的にとぎれ、それを補う形で廣海家は新たな取引相手を増やした。

次に販売先の検討を行う。表6を見よう。廣海家は文久元年(1861)までは、取扱魚肥の大部分を貝塚の肥料仲買株仲間商へ販売したが、文久2年以降岸和田の肥料商や大坂の肥料仲買商への販売が増大した。それとともに貝塚の仲

41) 前掲『貝塚市史』第3巻史料、314頁及び前掲柚木学編『近代海運史料』、295頁。

42) 前掲平野茂之『大阪穀肥料市場沿革史』59-62、86-7頁。木谷については、明治25年度『日本全国商工人名録』大阪府貝塚の項より。

43) 拙稿「国内海運網の近代化と流通構造の変容」(石井謙治編『日本海事史の諸問題 海運編』文献出版、1995年)。

44) 熊田源太郎家については、拙稿「近世・近代期北前船商人の経営展開」(前掲斎藤善之編『新しい近世史3』)を参照。

表6 幕末期廣海家魚肥販売量販売地域先別一覧

単位：石、括弧内は%

| 地域     | 安政6             | 万延元             | 文久元             | 文久2             | 文久3             | 慶応元             | 慶応2             | 慶応3             | 明治元             | 明治2             | 明治3             | 明治4             | 明治5             |
|--------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|
| 貝塚     | 3,527<br>(78.7) | 5,212<br>(62.2) | 6,429<br>(77.9) | 3,441<br>(61.2) | 3,311<br>(68.5) | 2,735<br>(56.5) | 2,335<br>(47.0) | 1,173<br>(49.2) | 4,331<br>(62.3) | 1,357<br>(85.9) | 3,019<br>(88.4) | 2,277<br>(68.0) | 4,630<br>(58.6) |
| 岸和田    | 277<br>(6.2)    | 484<br>(5.8)    | 922<br>(11.2)   | 1,105<br>(19.6) | 759<br>(15.7)   | 739<br>(15.3)   | 1,076<br>(21.6) | 932<br>(39.1)   | 884<br>(12.7)   | 196<br>(12.4)   | 314<br>(9.2)    | 584<br>(17.4)   | 1,108<br>(14.0) |
| 堺・上灘   |                 | 115<br>(1.4)    | 115<br>(1.4)    | 230<br>(4.1)    | 12<br>(0.2)     | 132<br>(2.7)    | 27<br>(0.5)     | 37<br>(1.6)     | 79<br>(1.1)     |                 |                 | 64<br>(1.9)     | 165<br>(2.1)    |
| 佐野・下灘  | 136<br>(3.0)    | 1,130<br>(13.5) | 452<br>(5.5)    | 50<br>(0.9)     | 51<br>(1.1)     | 192<br>(4.0)    | 129<br>(2.6)    | 205<br>(8.6)    | 7<br>(0.1)      | 16<br>(1.0)     | 13<br>(0.4)     | 213<br>(6.4)    | 383<br>(4.8)    |
| 紀伊     | 422<br>(9.4)    | 574<br>(6.8)    | 242<br>(2.9)    | 140<br>(2.5)    | 128<br>(2.6)    |                 | 69<br>(1.4)     |                 | 91<br>(1.3)     |                 |                 |                 | 42<br>(0.5)     |
| 大坂     |                 | 142<br>(1.7)    |                 | 432<br>(7.7)    | 574<br>(11.9)   | 936<br>(19.3)   | 720<br>(14.5)   | 3<br>(0.1)      | 1,247<br>(17.9) |                 |                 |                 | 71<br>(0.9)     |
| 兵庫     |                 | 166<br>(2.0)    |                 |                 |                 |                 |                 |                 | 218<br>(3.1)    |                 |                 |                 |                 |
| 箱館産物会所 |                 |                 |                 |                 |                 |                 | 480<br>(9.7)    |                 |                 |                 | 干鰯店             | 122<br>(3.6)    | 1,504<br>(19.0) |
| その他とも計 | 4,480           | 8,385           | 8,251           | 5,626           | 4,837           | 4,838           | 4,973           | 2,386           | 6,952           | 1,580           | 3,414           | 3,349           | 7,906           |
| 総取引相手数 | 22              | 47              | 37              | 48              | 36              | 41              | 50              | 42              | 49              | 28              | 42              | 56              | 60              |
| 内貝塚    | 15              | 21              | 20              | 22              | 21              | 22              | 22              | 16              | 20              | 14              | 20              | 23              | 18              |
| 内岸和田   | 2               | 6               | 6               | 8               | 5               | 6               | 14              | 14              | 14              | 8               | 14              | 17              | 28              |

(出所) 安政6～明治5年「干鰯売留帳」(廣海家文書、廣海家蔵)より作成。

(注) 各年度ともその年に取引が完了したもののみ集計。翌年度への延売分は、翌年度の販売量として集計。取引相手数の単位は軒で、複数の相手に併せて販売した場合も1軒と数えた。この外、明治2年は阿州干鰯1,606俵、明治3年は昆布1,970把と阿州干鰯1,606俵を販売したが、右への換算が困難なため除いた。地域区分は史料による(表7も同じ)。上灘は貝塚から大坂寄りの沿岸地域、下灘は貝塚から紀伊国(現和歌山県)寄りの沿岸地域を示すと考えられる。

買商への販売量が絶対量でも減少し、慶応期(1865～68)には大坂市場への肥料販売が全体の20%近くを占めた。文久元年に廣海家は堺に設置された箱館産物会所肥手問屋に加入しており<sup>45)</sup>、慶応2年に箱館産物会所への販売が見られた。箱館産物会所への販売は慶応2年しかないが、堺の肥物問屋と同様貝塚の問屋も箱館産物会所へは、口銭等を上納するかわりに産物を居店で扱うことを願い出ており<sup>46)</sup>、廣海家は堺の箱館産物会所へ直接産物を販売することは少なかった。

明治に入ると、明治2年(1869)以後大阪・兵庫市場への肥料販売はほとんどなくなり、明治4年に干鰯店が設置され、以後干鰯店への販売が急増した。干鰯店は廣海家の支店であり、

主に貝塚浦の後背地農村への肥料の小売を担当していた。また貝塚・岸和田の取引相手を個別にみると、明治初年に大きく変化すると同時に岸和田の取引相手数が急増しており、明治維新による株仲間の廃止により、畿内市場の流動化が生じたことが分かる。

前述のように明治初年は大阪市場で不正取引が横行し、市場が非常に混乱した時期であった。その中で廣海家は大阪・兵庫への販売を止め、かわりに貝塚・岸和田で新たな肥料商との取引を拡大し、後背地農村への小売を開始することで、新たな販売網を確保した。

表7を見よう。明治期の廣海家の魚肥販売先の中心は幕末期同様貝塚・岸和田の肥料商であり、特に岸和田の肥料商への販売の比重が高まった。表6・7出所の史料によると、主要な取引相手は、貝塚・岸和田ともに明治0年代に大きく変動し、近世来の仲買仲間商人との取引量が減少して新しい取引相手が登場した。明治10年代まではそれらが中心的取引相手として継続

45) 前掲『貝塚市史』第3巻史料、374-5頁。箱館産物会所については、田島佳也「箱館産物会所の実態と特質」(神奈川大学大学院経済学研究科『研究論集』第3号、1979年)を参照。

46) 前掲『貝塚市史』第3巻史料、375頁。

表7 明治期廣海家魚肥販売量販売地域先別一覧

単位：石、括弧内は%

| 地域     | 明治5             | 明治9             | 明治13            | 明治17            | 明治20            | 明治22            | 明治27            | 明治29            | 明治33            | 明治38            |
|--------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|
| 貝塚     | 4,630<br>(58.6) | 2,381<br>(35.8) | 2,517<br>(43.3) | 2,212<br>(31.0) | 3,205<br>(48.6) | 2,964<br>(46.3) | 2,363<br>(29.0) | 1,547<br>(34.7) | 1,656<br>(33.3) | 2,173<br>(36.0) |
| 岸和田    | 1,108<br>(14.0) | 1,557<br>(23.4) | 1,387<br>(23.9) | 1,729<br>(24.2) | 1,123<br>(17.0) | 1,445<br>(22.6) | 2,071<br>(25.4) | 1,174<br>(26.3) | 710<br>(14.3)   | 1,096<br>(18.2) |
| 堺・上灘   | 165<br>(2.1)    | 613<br>(9.2)    | 556<br>(9.6)    | 648<br>(9.1)    | 902<br>(13.7)   | 442<br>(6.9)    | 575<br>(7.1)    | 459<br>(10.3)   | 500<br>(10.0)   | 225<br>(3.7)    |
| 佐野・下灘  | 383<br>(4.8)    | 746<br>(11.2)   | 156<br>(2.7)    | 262<br>(3.7)    | 361<br>(5.5)    | 279<br>(4.4)    | 204<br>(2.5)    | 106<br>(2.4)    | 73<br>(1.5)     | 552<br>(9.1)    |
| 紀伊     | 42<br>(0.5)     | 233<br>(3.5)    | 248<br>(4.3)    | 546<br>(7.6)    |                 | 2<br>(0.0)      | 114<br>(1.4)    | 157<br>(3.5)    | 132<br>(2.7)    | 325<br>(5.4)    |
| 大阪     | 71<br>(0.9)     | 329<br>(4.9)    | 91<br>(1.6)     | 879<br>(12.3)   | 40<br>(0.6)     | 251<br>(3.9)    | 1,002<br>(12.3) | 118<br>(2.6)    | 608<br>(12.2)   | 2<br>(0.0)      |
| 兵庫     |                 | 65<br>(1.0)     | 137<br>(2.6)    |                 |                 |                 |                 | 119<br>(2.6)    |                 |                 |
| 干鯛店    | 1,504<br>(19.0) | 674<br>(10.1)   | 609<br>(10.5)   | 863<br>(12.1)   | 859<br>(13.0)   | 1,023<br>(16.0) | 1,493<br>(18.3) | 585<br>(13.1)   | 1,287<br>(25.9) | 1,663<br>(27.6) |
| その他とも計 | 7,906           | 6,657           | 5,812           | 7,138           | 6,595           | 6,404           | 8,145           | 4,459           | 4,978           | 6,035           |
| 総取引相手数 | 60              | 67              | 75              | 73              | 62              | 63              | 59              | 47              | 51              | 44              |
| 内貝塚    | 18              | 15              | 18              | 17              | 19              | 21              | 20              | 15              | 15              | 11              |
| 内岸和田   | 28              | 20              | 29              | 25              | 14              | 18              | 13              | 12              | 11              | 7               |

(出所) 明治5年「干鯛売留帳」、明治9～38年「売留帳」(廣海家文書、廣海家蔵)より作成。

(注) 各年度ともその年に取引が完了したもののみ集計。翌年度への延売分は、翌年度の販売量として集計。取引相手数の単位は軒で、複数の相手に併せて販売した場合も1軒と数えた。

したが、松方デフレ期の明治10年代後半～20年代初頭に再び大きな変化がおり、主要な取引相手が交替した。その中で取引相手数も次第に減少して干鯛店への販売量が増大した。明治初年にほぼなくなった大阪肥料仲買商への販売も再び行われるようになり、明治10年代後半と明治20年代後半～30年代前半にかけて大阪肥料仲買商への販売比率が増大した。

泉南の後背地農村へは、明治初年に近世来の肥料仲買商が淘汰されたため廣海家自身が農家への小売を拡大する余地ができ、それを廣海家支店である干鯛店が担った。干鯛店の農家への小売状況が判明する「留」は、現在のところ明治15～33年(1882～1900)しか残っておらず、年によっては2冊あり、2系列の「留」が残されている。その場合それぞれの帳面に記載された地域は同じ村もあれば異なる村もあり、同じ村に関しては記載内容は重なる部分が多かった。現時点ではこれら2系列の関係は不明であるが、2系列の中で比較的残存冊数の多い方の

販売動向を表8に示した。その販売地域は現在の貝塚市・岸和田市・熊取町にあたる範囲が大部分で、貝塚港からほぼ半径10km以内の範囲であった。これらの農家への魚肥の販売は、多くが現物の前貸しで行われ、魚肥が渡されたのち2～6ヶ月後に代金は決済された。また秋に渡された魚肥の代金決済時期は翌年度に繰り越された場合が多かった。決済時期になっても代金が支払われなかった分は、ある程度まとまった段階で証文を入れて廣海家の農家への貸付金として処理され、利息も含めてその額が巨額になると年賦金支払いの返済計画がたてられた。表8を見ると、松方デフレ下の明治10年代後半に前年残貸額が増大し、それが明治23年にやや減少した様子が読み取れる、魚肥販売量は明治15～23年にかけて増大し、明治33年には取引軒数の減少もあって魚肥販売量は減少した。

松方デフレ期に前年残貸額が増大し、それが明治20年代以降減少する状況は、北海道の仕込商人であった佐藤家の漁家への仕込＝物品・資

表8 廣海家千鰯店魚肥小売先の村別推移

単位：金額は円、量は石

| 郷荘  | 村名   | 明治15年 |       |        |       |       | 明治19年 |       |        |       |       | 明治23年 |       |        |       |       | 明治33年 |       |        |       |       |
|-----|------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|
|     |      | 総軒数   | 前年残貸軒 | 前年残貸金額 | 魚肥販売軒 | 魚肥販売量 | 総軒数   | 前年残貸軒 | 前年残貸金額 | 魚肥販売軒 | 魚肥販売量 | 総軒数   | 前年残貸軒 | 前年残貸金額 | 魚肥販売軒 | 魚肥販売量 | 総軒数   | 前年残貸軒 | 前年残貸金額 | 魚肥販売軒 | 魚肥販売量 |
| 上泉  | 助松   | 5     | 3     | 117    | 2     | 5.9   |       |       |        |       |       |       |       |        |       |       |       |       |        |       |       |
| 下泉  | 大津宮  | 8     | 6     | 26     | 3     | 11.0  | 4     | 1     | 10     | 4     | 27.3  | 8     | 3     | 27     | 8     | 16.4  | 8     | 3     | 10     | 8     | 27.3  |
| 輕部  | 北出   | 1     | 1     | 5      |       |       |       |       |        |       |       |       |       |        |       |       |       |       |        |       |       |
| 輕部  | 小田   |       |       |        |       |       | 6     |       |        | 6     | 14.5  | 5     | 2     | 16     | 4     | 5.6   |       |       |        |       |       |
| 山直  | 内畑   | 2     | 1     | 65     | 1     | 1.5   | 3     | 2     | 8      | 1     | 13.4  | 8     | 3     | 275    | 7     | 88.8  |       |       |        |       |       |
| 掃守  | 木積   | 10    | 2     | 31     | 8     | 14.9  |       |       |        |       |       | 21    | 4     | 64     | 18    | 27.2  | 13    | 6     | 216    | 11    | 37.3  |
| 掃守  | 額原   | 13    | 9     | 56     | 7     | 7.3   |       |       |        |       |       |       |       |        |       |       | 3     |       |        | 3     | 3.5   |
| 掃守  | 阿間ヶ瀬 | 1     | 1     | 3      | 1     | 2.2   | 1     |       |        | 1     | 1.5   | 1     |       |        | 1     | 0.6   |       |       |        |       |       |
| 掃守  | 土生瀧  |       |       |        |       |       | 14    | 3     | 19     | 13    | 91.4  | 18    | 6     | 699    | 14    | 89.0  | 2     | 1     | 59     | 2     | 5.4   |
| 掃守  | 河合   |       |       |        |       |       | 2     | 2     | 16     |       |       | 3     | 1     | 16     | 1     | 6.8   | 13    | 2     | 72     | 13    | 73.2  |
| 掃守  | 土生   |       |       |        |       |       | 6     | 3     | 41     | 4     | 14.6  | 5     |       |        | 5     | 15.0  |       |       |        |       |       |
| 掃守  | 大沢   |       |       |        |       |       |       |       |        |       |       |       |       |        |       |       | 5     | 1     | 39     | 4     | 6.3   |
| 麻生  | 清見   | 8     | 4     | 87     | 3     | 5.3   | 8     | 5     | 76     | 3     | 9.6   | 9     | 2     | 53     | 7     | 9.4   | 6     |       |        | 6     | 6.1   |
| 麻生  | 名越   | 27    | 12    | 206    | 17    | 18.2  | 19    | 8     | 148    | 12    | 31.2  | 14    | 5     | 39     | 11    | 24.5  | 11    |       |        | 9     | 16.2  |
| 麻生  | 森    | 20    | 9     | 226    | 14    | 20.8  | 18    | 11    | 309    | 8     | 18.7  | 15    | 6     | 124    | 10    | 34.8  | 11    | 4     | 129    | 11    | 35.8  |
| 麻生  | 三ッ松  | 25    | 14    | 360    | 10    | 13.1  | 41    | 25    | 470    | 20    | 49.4  | 24    | 11    | 171    | 16    | 67.6  | 21    | 9     | 97     | 18    | 33.3  |
| 麻生  | 水間   | 2     | 2     | 58     | 2     | 5.0   | 2     | 1     | 50     | 1     | 2.4   | 4     | 1     | 134    | 2     | 6.2   | 3     | 1     | 2      | 3     | 18.2  |
| 麻生  | 三ッ山  | 9     | 7     | 65     | 3     | 3.9   |       |       |        |       |       | 8     | 1     | 5      | 7     | 13.2  |       |       |        |       |       |
| 麻生  | 鳥羽   | 2     | 2     | 21     |       |       |       |       |        |       |       |       |       |        |       |       |       |       |        |       |       |
| 近義  | 王子橋本 | 9     | 6     | 180    | 5     | 16.5  | 10    | 6     | 89     | 5     | 4.8   | 4     | 2     | 22     | 2     | 3.3   | 4     | 1     | 2      | 4     | 10.1  |
| 近義  | 石才   | 1     | 1     | 49     |       |       |       |       |        |       |       | 1     | 1     | 18     |       |       |       |       |        |       |       |
| 近義  | 中    | 1     | 1     | 26     |       |       | 2     |       |        | 2     | 2.0   |       |       |        |       |       |       |       |        |       |       |
| 近義  | 沢・畠中 | 1     | 1     | 22     |       |       | 1     |       |        | 1     | 6.7   |       |       |        |       |       |       |       |        |       |       |
| 近義  | 臨浜   | 2     | 2     | 33     |       |       |       |       |        |       |       |       |       |        |       |       |       |       |        |       |       |
| 熊取  | 七山   | 8     | 4     | 66     | 6     | 8.4   | 12    | 8     | 86     | 8     | 25.6  | 11    | 8     | 96     | 7     | 14.4  | 9     | 6     | 101    | 9     | 20.2  |
| 熊取  | 小垣内外 | 25    | 5     | 65     | 21    | 38.4  | 14    | 10    | 176    | 10    | 23.5  | 16    | 5     | 59     | 11    | 40.5  | 3     |       |        | 3     | 7.8   |
| 熊取  | 久保   | 40    | 12    | 88     | 36    | 62.9  | 20    | 7     | 191    | 11    | 37.0  | 17    | 9     | 178    | 14    | 42.5  | 10    | 5     | 71     | 9     | 31.4  |
| 熊取  | 和田   | 23    | 5     | 131    | 20    | 46.1  | 20    | 14    | 601    | 14    | 60.6  | 21    | 13    | 264    | 15    | 61.5  | 10    | 6     | 63     | 9     | 22.0  |
| 熊取  | 野田   | 15    | 6     | 256    | 9     | 17.9  | 10    | 6     | 680    | 6     | 17.5  | 10    | 6     | 301    | 8     | 11.1  | 2     | 1     | 30     | 1     | 7.1   |
| 熊取  | 朝代   | 34    | 2     | 18     | 31    | 40.7  | 37    | 18    | 312    | 32    | 81.6  | 27    | 13    | 159    | 20    | 29.1  | 14    | 8     | 104    | 11    | 15.9  |
| 熊取  | 高田   | 17    |       |        | 17    | 34.3  | 21    | 12    | 150    | 9     | 34.0  | 11    | 7     | 99     | 7     | 25.2  | 2     | 1     | 18     | 2     | 8.4   |
| 熊取  | 川田   | 2     |       |        | 2     | 2.3   | 2     | 2     | 32     | 1     | 5.1   | 3     | 2     | 89     |       |       | 2     | 1     | 5      | 2     | 3.0   |
| 熊取  | 紺屋   | 1     |       |        | 1     | 4.0   | 3     | 2     | 8      | 3     | 4.7   | 1     | 1     | 10     |       |       | 9     | 1     | 3      | 9     | 9.8   |
| 熊取  | 成合   | 7     |       |        | 7     | 10.2  | 8     | 4     | 54     | 4     | 7.0   | 6     | 1     | 3      | 6     | 11.7  |       |       |        |       |       |
| 熊取  | 平見   | 17    | 10    | 188    | 8     | 10.3  | 6     | 2     | 83     | 3     | 10.2  | 4     | 3     | 77     | 2     | 4.3   |       |       |        |       |       |
| 熊取  | 大久保  | 4     | 3     | 53     | 3     | 5.7   | 3     | 2     | 4      | 1     | 0.9   |       |       |        |       |       |       |       |        |       |       |
| 熊取  | 小谷   |       |       |        |       |       | 16    | 6     | 135    | 12    | 27.9  | 15    | 6     | 59     | 10    | 24.8  | 31    | 18    | 565    | 30    | 98.8  |
| 熊取  | 五門   |       |       |        |       |       | 5     | 4     | 101    | 1     | 4.6   | 5     | 4     | 49     | 1     | 2.1   |       |       |        |       |       |
| 信達  | 新家   | 1     | 1     | 4      |       |       |       |       |        |       |       | 3     |       |        | 3     | 4.5   | 3     |       |        | 3     | 4.5   |
| 那珂  | 貝田   | 6     | 3     | 12     | 4     | 12.2  | 12    | 8     | 126    | 8     | 20.2  | 13    | 7     | 117    | 11    | 28.4  | 10    | 5     | 114    | 9     | 17.7  |
| 不明  | 3ヶ村  | 2     | 2     | 29     |       |       | 1     | 1     | 42     |       |       |       |       |        |       |       |       |       |        |       |       |
| 合 計 |      | 349   | 137   | 2,544  | 241   | 418.4 | 327   | 173   | 4,016  | 204   | 647.7 | 311   | 133   | 3,225  | 228   | 708.9 | 205   | 80    | 1,701  | 189   | 519.4 |

(出所) 各年度「留」(廣海家文書、廣海家蔵)より作成。

(注) 土生村は土生新出村も含む。木積村は木積片山村も含む。七山村は七山上新出村も含む。小垣内外村は、明治15・33年は小垣内村、明治19・23年は小垣外村として記載。取引相手の連名の場合は1軒と数えた。残貸金額には当年分利息は含めず。円未満を四捨五入した。魚肥販売量には前年度からの売掛分は含め、次年度への売掛分は含めず。小数点第2位を四捨五入した。不明の3ヶ村は、明治15年は海岸寺門蔵村と崔原村、明治19年は大浦村。郷荘は近世期の地域区分で、現在の市町村と対照させると、上泉・下泉郷は京大津市、輕部郷は和泉市、山直・掃守郷は岸和田市、麻生・近義郷は貝塚市、熊取郷は熊取町、信達郷は泉南市、那珂郷は泉佐野市。

金前貸においても見られた。そして漁家の残借金返済が抵当に入っていた漁場を佐藤家に引き渡す形で行われたため、佐藤家はそれをてこに漁場所有を拡大した<sup>47)</sup>。廣海家にも明治10年

代後半に取得した地券が多く残されており、前貸金の債権を相殺する形で土地を取得し、明治

47) 拙稿「19世紀後半における北海道漁業構造の転換」(『土地制度史学』第133号、1991年)。

表9 明治22年廣海家土地所有内訳

| 市町   | 村    | 軒  | 田          | 軒  | 畑・宅地    |
|------|------|----|------------|----|---------|
| 貝塚市  | 鳥羽村  | 6  | 1町3反9畝16歩  | 1  | 1畝1歩    |
|      | 清見村  | 19 | 2 9 3 11   |    |         |
|      | 名越村  | 11 | 1 6 7 5    |    |         |
|      | 三松村  | 3  | 3 0 15     |    |         |
|      | 森村   | 3  | 8 4 12     | 1  | 8畝14歩   |
|      | 堀村   | 2  | 1 1 8 17   |    |         |
|      | 神前村  | 2  | 1 5 19     |    |         |
|      | 加治村  | 1  | 1 0 21     |    |         |
| 熊取町  | 橋本村  | 2  | 3 8 9      |    |         |
|      | 野田村  | 4  | 1 0 9      | 2  | 3反8畝16歩 |
|      | 小垣外村 | 5  | 9 4 4      |    |         |
|      | 久保村  | 15 | 2 2 2 14   | 3  | 9畝16歩   |
|      | 和田村  | 7  | 1 6 4 23   | 1  | 6畝20歩   |
| 泉佐野市 | 小谷村  | 1  | 1 5 29     |    |         |
|      | 鶴原村  | 2  | 1 0 4 19   | 1  | 1反1畝27歩 |
|      | 日根野村 | 7  | 9 8 9      | 1  | 2畝3歩    |
| 合計   |      | 90 | 17町0反7畝13歩 | 10 | 7反8畝7歩  |

(出所) 明治22年「田畑宛米帳」(廣海家文書, 廣海家蔵)より作成。

(注) 軒数は小作人軒数, 和田村は実際には久保村に編入。市町は現在の区分。表の記載の外に小垣外村で山林6歩を所有。

22年(1889)に約18町歩の土地を所有した。表9でその内訳を示した。表8と対照させると、肥料販売を多く行った村で多くの土地所有をしたが、必ずしも相関関係は強くなく、土地所有しなかった岸和田市域の農家への肥料販売も大規模に行った。廣海家にとって肥料商の活動があくまで中心であり、その結果取得することになった土地に関して地主経営を行ったのであり、肥料前貸をてこに積極的に土地集積を進めようとする志向は無かったと思われる。廣海家にはその後土地所有規模を拡大した形跡はなく、同家の大正6年(1917)の土地所有規模は、約13町歩であった<sup>48)</sup>。

廣海家と農家との関係を、廣海家が土地所有した和田村の事例で検討する。和田村は行政区分上久保村に含まれ、貝塚港の南約7kmのところに位置した。表10を見よう。廣海家の和田村農家との取引軒数は21~23軒で明治15~25年(1882~92)までほとんど変化なく、ほぼ同じ相手に魚肥を販売した。明治15年時点で、前年残貸はaとtを除きほとんどなかったが、この年の魚肥販売代金の回収が滞って次年度残貸が急増し、明治19年まで前年残貸額がかなり多か

った。これらの残借の返済のため、同年にk・uはそれぞれ土地を廣海家に引き渡し、以後廣海家から土地を借りて小作経営を行った。

しかしその事例を一般化はできない。前述の佐藤家と漁家との関係でも、松方デフレ期に佐藤家への借金が累積し、漁場を引き渡した漁家がいた一方で、佐藤家から自立して漁業経営を拡大した漁家もいた<sup>49)</sup>。松方デフレ期は魚肥価格と同様米価も下落しており、米を購入して魚肥を販売した北海道の漁家にとって、魚肥価格の下落率以上に米価が下落した局面が有利に働いた場合もあった。従って生産物価格と購入肥料価格の双方を考慮して農家の動向を考えた。表11を見よう。代表的鯡魚肥として鯡粕と羽鯡(胴鯡)があるが、明治10年代後半~20年代前半の大阪卸売物価動向をみると、明治10年代後半は米価よりも鯡粕価格の下落率が大きく、明治20年代前半は鯡粕価格の回復が米価よりも早かった。魚肥を購入して米を販売した農家にとって明治10年代後半は相対的に有利な状況にあったと考えられる。ただし大阪市場価格と泉南地域の農家が購入した魚肥価格とが乖離していた可能性もあるため、表12で和田村農家への廣海家鯡魚肥販売価格の推移を示した。鯡粕・羽鯡ともに明治10年代後半に下落し、明治19年(1886)に底を打って回復に向かった。価格は明治17年頃まで大阪卸売物価をやや上回り、その後明治19年に同水準まで下落し、明治20年代に大阪卸売物価をやや下回る水準で推移したが、波の形はほとんど差はなく、大阪卸売物価と泉南農村の消費者物価との間に絶対値・波の形ともにかなり強い連動性があった。しかも表12では、同じ時期に鯡魚肥を販売した複数の農家に対していずれも同じ価格で販売しており、若干の例外(明治15年3月と明治22年2~3月の羽鯡販売)を除き、村内で鯡魚肥消費者価格はほぼ一価的に決まっていた。佐藤家の漁家への米の販売では、佐藤家は各漁家に異なる

48) 大正7年「貢米取入帳」(廣海家文書, 廣海家蔵)。

49) 前掲拙稿「19世紀後半における北海道漁業構造の転換」。

表10 和田村農家への廣海家干鰯店魚肥販売

単位: 前年残貸と次年繰越は金額で円, 魚肥販売は量で石

| 販売先      | 明治15年    |          |          | 明治17年    |          |          | 明治19年    |          |               | 明治23年    |          |          | 明治25年    |          |          | 明治33年    |          |          |
|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|---------------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|
|          | 前年<br>残貸 | 魚肥<br>販売 | 次年<br>繰越 | 前年<br>残貸 | 魚肥<br>販売 | 次年<br>繰越 | 前年<br>残貸 | 魚肥<br>販売 | 次年<br>繰越      | 前年<br>残貸 | 魚肥<br>販売 | 次年<br>繰越 | 前年<br>残貸 | 魚肥<br>販売 | 次年<br>繰越 | 前年<br>残貸 | 魚肥<br>販売 | 次年<br>繰越 |
| a        | 67.8     | 4.8      | 51.0     | 62.8     | 8.5      | 62.8     | 87.1     | 6.9      | 98.6          | (85)     |          | (85)     | 84.8     |          | 84.8     |          |          |          |
| b        | 0        | 1.5      | 0        | 44.8     |          | 44.8     |          |          |               |          |          |          | 0        | 0.4      |          |          |          |          |
| c        | 10.3     |          | 4.2      | 6.3      |          | 22.0     | 6.3      | 4.2      | 52.1          | (6.3)    |          | (6.3)    | 6.3      |          | 6.3      |          |          |          |
| d        | 0        | 6.3      | 26.1     | 0        | 7.7      | 1.9      | 9.7      | 5.3      | 8.4           | 0        | 6.5      | 18.0     | 0        | 9.7      | 4.4      |          |          |          |
| e        | 0.4      | 4.1      | 13.3     | 0        | 5.5      | 10.2     | 0        | 5.5      | 13.0          | 0        | 6.3      | 20.3     | 0        | 6.4      | 0        |          |          |          |
| * f      | 0        | 1.5      | 51.8     | 0        | 4.8      | 39.4     | 0        | 4.7      | 40.0          | 50.4     | 2.4      | 70.1     | 0        | 2.3      | 5.6      | 0        | 3.8      | 36.9     |
| g        | 0        | 1.4      | 0        | 0        | 2.9      | 6.8      | 9.7      | 5.8      | 15.0          | 11.9     | 5.5      | 82.4     | 0        | 7.7      | 28.8     | 0        | 2.5      | 36.3     |
| h        | 0        | 1.9      | 0        | 10.2     | 1.5      | 22.2     | 0        | 3.3      | 38.1          | 0        | 2.9      | 17.7     | 22.1     | 5.3      | 16.6     | 0        | 2.5      | 36.8     |
| * i (5名) | 0        | 4.0      | 275.0    | 275.0    | 3.7      | 238.8    | 247.8    |          | 247.8         |          |          |          |          |          |          |          |          |          |
| j        | 2.0      | 2.2      | 0        | 2.0      | 6.9      | 3.3      | 0        | 2.8      | 14.4          | 0        | 7.5      | 104.6    | 0.3      | 10.6     | 23.0     |          |          |          |
| * k      | 0        | 2.6      | 11.9     |          |          |          | 15.3     | 1.6      | <sup>1)</sup> | 0        | 1.9      | 22.1     | 0        | 3.3      | 0        | 0        | 3.4      | 51.9     |
| * l      | 0        | 3.2      | 61.4     | 0        | 3.6      | 51.8     | 51.2     |          | 51.2          | 10.8     |          | 10.8     | 0        | 0.8      | 5.9      |          |          |          |
| m        | 0        | 1.9      | 0        | 0        | 5.3      | 28.0     | 12.7     | 4.6      | 14.0          | 12.0     | 5.1      | 15.5     | 0        | 6.0      | 32.2     |          |          |          |
| n        | 0        | 1.1      | 14.6     | 24.0     | 1.1      | 14.1     |          |          |               |          |          |          |          |          |          |          |          |          |
| * o      | 0        | 1.8      | 0        | 16.0     | 2.9      | 46.0     | 6.6      | 4.2      | 30.7          | 16.0     | 0.6      | 17.3     | 0        | 2.6      | 10.7     | 18.0     | 1.8      | 45.9     |
| p        | 0        | 1.3      | 10.3     | 8.0      | 1.0      | 5.4      |          |          |               | 3.9      | 3.4      | 7.3      | 0        | 2.3      | 0        |          |          |          |
| q        | 0        | 0.7      | 30.0     | 30.0     |          | 30.0     | 30.0     |          | 28.0          | 5.0      |          | 5.0      | 0        | 0.7      | 7.0      | 13.0     | 0.5      | 20.8     |
| r        | 0        | 2.6      | 12.8     | 0        | 1.0      | 49.0     | 40.1     |          | 40.1          | 40.1     |          | 40.1     | 37.0     |          | 14.0     |          |          |          |
| s        | 0        | 2.3      | 6.2      | 0        | 0.4      | 41.6     |          |          |               | 2.3      |          | 2.3      | 2.3      |          | 2.3      |          |          |          |
| t (3名)   | 50.0     |          | 50.0     | 53.5     |          | 53.5     | 53.5     |          | 53.5          |          |          |          |          |          |          |          |          |          |
| * u      | 0        | 0.4      | 0        | 0        | 1.0      | 7.8      | 11.8     | 5.8      | <sup>2)</sup> | 0        | 3.1      | 20.2     | 0.4      | 4.5      | 14.8     | 0.8      | 1.3      | 22.1     |
| v        | 0        | 0.7      | 0        | 11.1     | 2.5      | 9.7      | 0        | 4.4      | 38.9          | 13.7     | 5.2      | 36.9     | 1.9      | 9.7      | 29.2     | 0.8      | 4.8      | 73.3     |
| w        | 0        |          | 16.0     | 16.0     | 0        | 19.5     | 19.5     |          | 19.5          |          |          |          |          |          |          |          |          |          |
| x        |          |          |          |          |          |          | 0        | 1.4      | 0             |          |          |          |          |          |          |          |          |          |
| y        |          |          |          |          |          |          |          |          |               | 6.7      | 7.8      | 81.6     | 0        | 10.2     | 28.6     | 0.2      | 1.4      | 20.8     |
| * z      |          |          |          |          |          |          |          |          |               | 0        | 1.0      | 24.2     | 15.0     | 4.4      | 51.9     | 30.3     | 0        | 30.5     |
| 合計       | 130.5    | 46.1     | 634.6    | 559.7    | 60.1     | 808.6    | 601.4    | 60.6     | 803.3         | 264.0    | 61.5     | 687.4    | 170.1    | 91.6     | 366.1    | 63.2     | 22.0     | 375.2    |

(出所) 各年度「留」(廣海家文書, 廣海家蔵)より作成。

(注) 販売先はプライバシー保護のため記号で示した。販売先の括弧内は連名で取引したことを示す。販売先の前に付した\*は、廣海家から土地を借りた小作人を示す(明治22年「田畑宛米帳」, 廣海家文書)。金額の括弧内は帳簿上は名前が出てこなかったが、前後関係より推定できるもの。金額・量ともに小数点第2位を四捨五入した。明治17年に、aは種5石6斗9升を渡して債務を一部返済、nは種2石6斗2升を渡して9円69銭返済、oは種1石8斗を渡して6円66銭返済。

1) kはこの年1反1畝4歩の田地を45円で廣海家に売却して債務を返済した。2) uはこの年田地を28円で廣海家に売却して債務を返済した。

価格で米の販売を行い、佐藤家に物品前貸まで負った漁家へは、同じ村の別の漁家より高い米価で前貸を行った<sup>50)</sup>。それに比べ畿内農村市場では、商人が恣意的に販売価格を決定できる状況にはなく、大阪市場と価格の絶対値・波の形において連動性があり、かなり市場としての成熟度を示していた。

とすれば魚肥価格下落率が米価以上に大きかった明治10年代後半に、廣海家への農家の残借が急増した要因を別に求める必要がある。泉南地域の農家は表作として米作と棉作、裏作として麦作と菜種栽培を代表的な商業的農業として行い、副業として木綿を織ったものも多かつ

た<sup>51)</sup>。和田村農家でも明治17年(1884)のaやnやoのように菜種を廣海家に売却して債務を返済したものもいた(表10)。表11に戻ると、大阪卸売市場での和泉木綿・菜種油価格の明治10年代後半の下落率は鯉鰯粕価格の下落率以上に大きく、松方デフレは菜種栽培や家内副業としての木綿織りに大きな打撃を与えた。さらに明治20年代に鯉魚肥価格は回復したが、菜種油・繰綿・木綿価格はいずれも回復せず、大阪近郊では棉花・菜種生産は衰退した<sup>52)</sup>。そのため表10に

51) 明治7年「府県物産表」によれば、堺県(現大阪府南部)の生産物で、生産額の上位5種は、米・木綿・実綿・菜種(油)・麦であった(『明治前期産業発達史資料』第1集, 明治文献資料刊行会, 1959年, 235-40頁)。

52) 八木哲浩『近世の商品流通』塙書房, 1962年, 304頁。

50) 前掲拙稿「19世紀後半における北海道漁業構造の転換」, 第10表を参照。

表11 大阪卸売物価の動向

| 年     | 摂津米中     |     | 鯉ヶ粕上               |     | 羽鯉上                |     | 河内繰綿中       |     | 和泉木綿中              |     | 菜種油                |     |
|-------|----------|-----|--------------------|-----|--------------------|-----|-------------|-----|--------------------|-----|--------------------|-----|
|       | 石当り<br>円 | 指数  | 石当り<br>円           | 指数  | 石当り<br>円           | 指数  | 10貫目<br>当り円 | 指数  | 反当り<br>円           | 指数  | 石当り<br>円           | 指数  |
| 明治14上 | 9.3      | 100 | 11.86              | 100 | 13.52              | 100 | 22.2        | 95  | 0.45               | 96  | 26.0               | 68  |
| 下     | 8.86     | 95  | 10.76              | 91  | 10.39              | 77  | 21.0        | 90  | 0.47               | 100 | 38.0               | 100 |
| 15上   | 7.5      | 81  | 9.54               | 80  | 8.88               | 66  | 23.3        | 100 | 0.43               | 91  | 37.8               | 99  |
| 下     | 8.3      | 89  | 9.38               | 79  | 8.58               | 63  | 23.2        | 100 | 0.42               | 90  | 27.1               | 71  |
| 16上   | 6.41     | 69  | 7.88               | 66  | 7.92               | 59  | 17.2        | 74  | 0.33               | 69  | 23.6               | 62  |
| 下     | 5.77     | 62  | 7.12               | 60  | 6.27               | 46  | 12.7        | 55  | 0.26               | 55  | 17.2               | 45  |
| 17上   | 4.93     | 53  | 7.18               | 61  | 6.57               | 49  | 12.5        | 54  | 0.24               | 50  | 15.8               | 41  |
| 下     | 5.24     | 56  | 5.69               | 48  | 5.09               | 38  | 12.3        | 53  | 0.21               | 44  | <sup>2)</sup> 13.8 | 36  |
| 18上   | 5.9      | 63  | 6.22               | 52  | 5.78               | 43  | 14.4        | 62  | 0.22               | 46  | 16.3               | 43  |
| 下     | 5.93     | 64  | 5.43               | 46  | 5.13               | 38  | 12.9        | 55  | 0.2                | 43  | 17.7               | 46  |
| 19上   | 5.14     | 55  | 5.51               | 46  | 5.21               | 39  | 11.5        | 49  | 0.19               | 41  | 16.7               | 44  |
| 下     | 5.39     | 58  | —                  | —   | —                  | —   | 11.7        | 50  | —                  | —   | —                  | —   |
| 20上   | 5.09     | 55  | —                  | —   | —                  | —   | 11.2        | 48  | 0.15               | 32  | —                  | —   |
| 下     | 4.72     | 51  | —                  | —   | —                  | —   | 11.4        | 49  | 0.15               | 32  | —                  | —   |
| 21上   | 4.43     | 48  | <sup>1)</sup> 8.18 | 69  | <sup>1)</sup> 6.9  | 51  | 12.5        | 54  | <sup>1)</sup> 0.18 | 38  | <sup>3)</sup> 14.7 | 39  |
| 下     | 4.71     | 51  | 7.44               | 63  | 6.29               | 47  | 12.5        | 54  | 0.19               | 41  | 17.2               | 45  |
| 22上   | 4.76     | 51  | 7.67               | 65  | 6.64               | 49  | 12.7        | 55  | 0.19               | 41  | 20.2               | 53  |
| 下     | 6.59     | 71  | 8.99               | 76  | 7.95               | 59  | 13.9        | 60  | 0.2                | 43  | 21.6               | 57  |
| 23上   | 8.6      | 92  | 9.6                | 81  | 9.41               | 70  | 13.8        | 59  | 0.19               | 41  | 21.9               | 57  |
| 下     | 8.08     | 87  | 9.15               | 77  | 8.33               | 62  | 12.6        | 54  | 0.2                | 42  | 22.9               | 60  |
| 24上   | 6.8      | 73  | 8.37               | 71  | —                  | —   | 12.0        | 52  | 0.22               | 47  | 19.9               | 52  |
| 下     | 7.29     | 78  | 8.24               | 69  | —                  | —   | 12.0        | 52  | 0.22               | 47  | 17.4               | 46  |
| 25上   | 7.4      | 80  | 9.01               | 76  | 8.85               | 65  | 11.9        | 51  | —                  | —   | —                  | —   |
| 下     | 6.97     | 75  | 9.31               | 78  | 9.15               | 68  | 12.3        | 53  | 0.17               | 35  | <sup>4)</sup> 16.6 | 44  |
| 26上   | 6.42     | 69  | 10.19              | 86  | 10.0               | 74  | 12.5        | 54  | 0.16               | 33  | 19.3               | 51  |
| 下     | 7.98     | 86  | 9.56               | 81  | 9.39               | 69  | 12.2        | 52  | 0.17               | 36  | 21.8               | 57  |
| 27上   | 8.11     | 87  | 10.2               | 86  | 9.84               | 73  | 12.0        | 52  | 0.17               | 36  | 20.8               | 55  |
| 下     | 9.45     | 102 | 9.37               | 79  | <sup>2)</sup> 9.72 | 72  | 11.5        | 49  | 0.18               | 39  | 22.4               | 59  |

(出所) 大阪大学近代物価史研究会「明治期大阪卸売物価資料(1)(2)(5)(7)」(『大阪大学経済学』第29巻1号, 2号, 第30巻4号, 第31巻4号, 1979～82年)より作成。

(注) 年代の上は上半期で各年の1～6月のうち判明した月の価格を平均。下は下半期で各年の7～12月のうち判明した月の価格を平均。鯉ヶ粕・羽鯉(銅鯉)は出所の資料では10貫目当りの価格で表示されていたが, 40貫目＝1石で石当りの価格に換算した。鯉ヶ粕は明治23年までは増毛産。繰綿は明治20年までは玉繰本銘。木綿は明治20・24年は生木綿, 明治21・22年は和泉洋綴織, 明治23・25～27年は和泉丸唐。菜種油は地元産で明治19年までは上, 明治24年は水油。—は数値が不明。小数点第2もしくは3位を四捨五入した。指数は, 明治13年の数値が不明のため明治14～15年のピーク時を100とした。

1) 5・6月の価格の平均。2) 7月の価格。3) 6月の価格。4) 9・10月の価格の平均。

戻ると, 明治23年にも廣海家の和田村農家への残貸額はかなり残った。むしろ明治19年の次年度残貸繰越額と明治23年時点の前年度残貸額を比較すると,  $i$  への貸付金約250円や  $t$  への貸付金約54円が償却され, 全体の合計額はかなり減少したが,  $i$  や  $t$  はその後「留」には名前が出てこず,  $i$  の場合は土地を廣海家に引き渡して,  $t$  の場合は返済不能分として処理された可能性が強い。そして明治20年代には, 各農家への魚肥販売量に格差が見られ, 全く魚肥販売が行われず, 残貸のみ記載された農家も増えた。ただし明治23年に増えた残貸額は, 明治25年の時点

でかなり返済が進んだ。その要因として, 残貸の利息の利率が切り下げられたことを指摘したい。表10出所の史料によると, 明治10年代後半に廣海家は農家への残貸に年利18～24%の利率で利息をかけていた。特に金額の大きい場合ほど利率を高く設定した傾向があり, ほとんどが年利20%を上回った。しかし明治20年代になると年利13～18%の範囲で利息をかけており, 農家の残借金への利息負担はかなり軽減された。

表12 和田村農家への廣海家干鰯店鯨魚肥販売価格の推移

単位：石当り円

| 年   | 月日          | 鯨魚肥   | 軒  | 月日        | 羽鯨    | 軒  |
|-----|-------------|-------|----|-----------|-------|----|
| 明14 | 9・8         | 13.76 | 2  |           |       |    |
| 明15 |             |       |    | 3・3~10    | 8.80  | 2  |
|     | 9・6         | 14.24 | 1  | 3・6~22    | 11.20 | 6  |
| 明16 | 5・3~4       | 10.0  | 5  | 3・5       | 9.72  | 1  |
|     | 5・20~29     | 9.6   | 2  | 3・5~27    | 9.6   | 14 |
|     | 5・31        | 8.8   | 1  |           |       |    |
|     | 10・23~11・15 | 8.2   | 2  |           |       |    |
| 明17 | 2・15        | 6.68  | 1  | 3・18      | 7.0   | 1  |
|     | 2・21        | 6.4   | 1  | 3・18~19   | 6.8   | 2  |
|     | 5・4         | 7.84  | 1  | 4・1~12    | 7.0   | 5  |
|     | 6・6         | 8.0   | 2  |           |       |    |
|     | 11・12       | 4.8   | 1  |           |       |    |
|     | 11・26       | 7.2   | 1  |           |       |    |
| 明19 | 3・6         | 5.52  | 1  | 2・20      | 5.4   | 11 |
|     | 3・20~29     | 5.2   | 1  | 3・6       | 6.4   | 1  |
|     | 4・12        | 5.4   | 1  | 3・20~29   | 5.4   | 3  |
|     | 5・9~20      | 5.28  | 2  |           |       |    |
|     | 5・12~20     | 5.2   | 2  |           |       |    |
|     | 6・18~25     | 5.8   | 2  |           |       |    |
|     | 12・1~21     | 6.6   | 3  |           |       |    |
|     | 12・19       | 6.4   | 1  |           |       |    |
| 明20 | 1・8         | 6.2   | 1  | 2・10~18   | 5.92  | 10 |
|     | 3・3         | 6.8   | 1  | 2・18~3・1  | 6.0   | 2  |
|     | 3・12        | 7.36  | 1  | 3・2       | 5.96  | 1  |
|     | 3・23        | 7.48  | 3  |           |       |    |
|     | 4・29        | 7.52  | 1  |           |       |    |
|     | 5・12        | 7.32  | 1  |           |       |    |
|     | 6・3         | 8.2   | 1  |           |       |    |
|     | 6・28        | 9.0   | 6  |           |       |    |
| 明22 | 1・14~2・26   | 7.4   | 4  | 2・5~3・20  | 7.68  | 9  |
|     | 4・12~21     | 7.4   | 2  | 2・12~26   | 6.6   | 3  |
|     | 6・6         | 8.28  | 1  | 2・14      | 7.8   | 1  |
|     | 6・27        | 8.4   | 1  | 3・9       | 6.8   | 1  |
|     | 10・7        | 9.8   | 1  | 5・15      | 7.6   | 1  |
| 明23 | 4・2~5・13    | 9.36  | 2  | 3・11~4・22 | 9.08  | 10 |
|     | 5・4~6・2     | 9.4   | 3  | 3・13~4・29 | 9.0   | 3  |
|     | 6・22~7・17   | 9.2   | 2  |           |       |    |
|     | 9・11~10・17  | 9.16  | 9  |           |       |    |
| 明24 | 9・24~10・1   | 8.6   | 10 |           |       |    |
|     | 11・2        | 8.8   | 1  |           |       |    |
| 明25 | 1・11~22     | 8.52  | 2  | 1・25      | 8.52  | 1  |
|     | 1・25        | 8.6   | 1  | 2・17      | 8.6   | 3  |
|     | 2・17~18     | 8.68  | 6  | 2・17~18   | 8.56  | 11 |
|     | 5・3         | 9.4   | 1  |           |       |    |
|     | 5・8         | 9.2   | 1  |           |       |    |
|     | 5・30        | 9.32  | 1  |           |       |    |
|     | 9・25~10・1   | 9.52  | 6  |           |       |    |

(出所) 明治15・16・17・19・20・22・23・25年「留」(廣海家文書、廣海家蔵)より作成。

(注) 軒はその価格で販売した軒数。

## 5. おわりに

以上検討した田中家・廣海家の肥料販売状況を踏まえて、大坂市場と貝塚浦との関係を考察する。はじめに触れたように従来の研究では、19世紀に入ると大坂への物資の入津量が減少し、周辺の他の浦々への物資の入津量が増大したため、大坂市場を通さない流通が拡大して19世紀前半に大坂市場は停滞したと主張された。大坂へ入津した物資を問屋が荷揚げし、それを仲買と取引した場を大坂市場と考えれば、その考え方も成り立つが、実際には廣海家のように、貝塚浦に入津した肥料を大坂の仲買商に販売した場合もあった。それゆえ前述のように大坂市場を狭く捉えることは、大坂市場の集散地市場としての歴史的意義を低く評価することになりかねず、大坂市場内部での仲買商同士の取引や、周辺の浦々から大坂への物資の流入の側面を考慮して、大坂市場の位置付けを再検討する必要がある。

その場合、大坂に直接入津されずに一旦貝塚を経由して大坂に物資が流入するようになった要因を解明すべきである。そこで廻船問屋が船主から取得する手数料＝口銭を検討する。大坂では安政4年(1857)～慶応2年(1866)にかけて問屋は船主から羽鯨(胴鯨)取扱量の10%・鯨魚肥取扱量の6%の風袋引と取扱高の6%の口銭を徴収し(実質約12～15%)、口銭6%の中で3%分(問屋口銭)を自らの取り分として取得し、残り3%分を仲買口銭として取引先の仲買に渡す決まりになっていたが<sup>53)</sup>、貝塚の廣海家は取扱量の5%の風袋引と取扱高の6.5%の口銭(実質約11%)を徴収し、口銭6.5%の中で2%分(場合によっては3%分)を取引先の仲買に渡

53) 前掲「北海産荷受問屋組合沿革史」406-10頁及び宮本又次「大阪に於ける北海産荷受問屋」(『経済史研究』第38・39号、1932・33年)。その他蔵敷料・水揚げ入賃を問屋は船主から若干徴収した。

54) 安政6～慶応4年「干鰯仕切帳」・「干鰯売留帳」(廣海家文書、廣海家蔵)。その他俵引・瀬取等の諸手数料を廣海家は船主から徴収したが、それらはいずれ

していた<sup>54)</sup>。物資の輸送形態が運賃積であれば、入津湊はあらかじめ決められているが、18世紀後半以降北海道産魚肥は、船主が商業活動も行う自分荷物積形態で主に輸送され、船主が取引湊選択の自由をもっていた。よって船主は価格と口銭の高低を考慮して取引湊を選択したと考えられ、廣海家は、口銭を大坂市場より低く設定して、物資の集荷を拡大させようとしたと言える。その結果廣海家は一般の大坂卸売物価よりも低価格で大坂肥料仲買商に魚肥を販売でき<sup>55)</sup>、大坂肥料仲買商が他の浦々の廻船問屋から積極的に肥料を買い入れる根拠になった。とは言えそれによって大坂市場への北海道産魚肥の入津量が減少したと考えるのは早計で、貝塚・大坂間の輸送コストを考えると、口銭が多少高くてもそれを埋め合わせるだけ大坂の荷受問屋が船主から高価格で買い入れることが可能であったとも言え、前述のように安政期(1854~60)と明治初年で大坂市場への北海道産魚肥の入津量はほとんど変化がなかった。それゆえ大坂の松前問屋は従来通りの風袋引と口銭の比率を維持することができ、全体として北海道産魚肥の生産量が幕末期に増大していたため、その増加分がより口銭の安い大坂周辺の浦々に荷揚げされるようになったとみれる。

それを大坂の問屋・仲買関係からみると、18世紀までは問屋が産地から運賃積や船主への前

貸を通して集荷したが、18世紀後半以降の流通構造の転換の中で取引相手選択の主導権が問屋から船主へ移ったため、仲買が大坂の問屋を通さずに周辺の浦々の問屋から物資を買い入れることができる状況が生じ、取引相手選択の主導権が問屋から仲買へ移ったことを意味した<sup>56)</sup>。

こうした状況下に、より有利な条件の湊で取引したい自分荷物積船主と、積極的に集荷して大坂市場などへの販売網の拡大を目指す大坂周辺の浦々の問屋と、大坂の問屋以外に多様な買入先を確保して後背地農村の肥料需要の増大に対応しようとした大坂の肥料仲買商が結び付いて、大坂の問屋ではなく周辺の浦々の問屋を通して大坂市場に集散される流通経路が形成され、最幕末期大坂肥料市場は拡大傾向にあったと考えられる。それゆえ大坂では幕末・維新时期に肥料問屋よりも肥料仲買商の方が資金蓄積を進め得る可能性が大きかったと思われ、それを基盤に大阪肥料仲買商は明治期大阪での企業勃興に積極的に関わった<sup>57)</sup>。一方周辺の浦々では、明治初年に貝塚浦の肥料仲買株仲間商人の多くが衰退したのとは対照的に、貝塚浦の廻船問屋であった廣海家や木谷七平家は、明治期以降もその経済的地位を維持し、泉南地域あるいは大阪の企業勃興に積極的に関わった<sup>58)</sup>。

も小額で合わせて取扱高の0.3%前後であった。

55) 廣海家が大阪仲買商へ販売した魚肥価格と大坂魚肥卸売物価を1石当りで比べると、文久2年(1862)正月：鰯粕、190銀匁と216銀匁、元治2年(1864)4月：鯉粕、468銀匁と492銀匁。慶応2年(1866)2月：鯉粕、734銀匁と748銀匁、羽餅、632銀匁と680銀匁、慶応4年11月：羽餅、1,320銀匁と1,740銀匁、と前者がいずれも安く、大坂卸売価格よりも安価で、大坂肥料仲買商は廣海家から買入れていた(各年度「干鰯売留帳」廣海家文書、廣海家蔵、宮本又次編『近世大阪の物価と利子』創文社、1963年、第36・37表)。なお廣海家が大阪仲買商から肥料を買い入れた場合、大阪・貝塚間の運賃は廣海家が負担しており、その場合の運賃は、積荷金額の1%程度であった(明治5年「運賃仲使帳」、明治5年「萬買帳」、廣海家文書、廣海家蔵)。

56) 天保初年の松前産物の大坂湊入津量の減少と兵庫湊入津量の増大に対し、天保4年(1833)大坂松前問屋仲間は、大坂松前組仲買仲間に兵庫湊からの松前産物の買入れをひかえるよう求めたが、松前組仲間は兵庫・和泉等での取引は「相互の商事」であり止められないとして、逆に松前問屋に一層の努力を求めた(前掲『北海道産物問屋組合沿革史』34-9頁)。

57) 前述の田中市兵衛の他に、大阪共立銀行頭取・平野紡績株式会社社長になった金澤仁兵衛も肥料仲買商であった(『日本全国諸会社役員録』柏書房、1988~89年)。また明治19年時点の大阪で5万円以上の資産所有者として、肥料仲買商で田中・金澤ら4軒が挙げられたが、荷受問屋一番組では今井勢兵衛と藤野熊蔵の2軒が挙げられたに止まった(前掲『明治大正大阪市史』第7巻史料篇、600-1頁)。

58) 廣海惣太郎は貝塚銀行・岸和田煉瓦株式会社の設立に関わりそれぞれ頭取・取締役となり、木谷七平は岸和田煉瓦・大阪セメント株式会社の取締役にになった(前掲『日本全国諸会社役員録』)。

その後明治に入ると、明治0年代に封建的規制が撤廃されたために大阪市場の混乱が生じ、泉南地域でも近世来の仲買仲間商人が没落し、多数の新興肥料商が登場した。廣海家は大阪市場への販売を止め、それら新興肥料商の需要に対応するため、北前船商人だけでなく大阪の肥料仲買商からも魚肥を買い入れ、また後背地農村への小売も開始した。明治10年代は激しいインフレとデフレの中で市場流動化が生じ、廣海家は大阪肥料仲買商から魚肥を購入すると同時に大阪肥料仲買商への販売も行った。ところがデフレが収束し畿内肥料市場の安定化が進んだ明治20年代前半には、廣海家の大阪肥料仲買商からの買入も大阪肥料仲買商への販売もほぼなくなり、貝塚の肥料商への販売や後背地農村への小売の比重が増大し、地域分断的市場構造が見られた。その後明治20年代後半以降国内海運において自分荷物積形態から汽船運賃積形態への転換が進み、従来の取引形態・流通経路に変更が迫られると、大阪・兵庫市場と貝塚の結び付きが再び見られ、廣海家は魚肥を大阪・兵庫の肥料仲買商から買い入れたり大阪・兵庫の肥料仲買商へ販売するようになった。

また明治20年代の畿内肥料市場は、北海道で佐藤家が年利24%で残貸に利息を設定したことや各漁家に異なる価格で米を販売したことと比べ<sup>59)</sup>、肥料商の消費者への貸付金利率の低さと大阪と周辺地域の価格の絶対値・波の形両面での連動性及び肥料商による恣意的な販売価格の設定が困難であったことからみて、かなり近代的な側面を有していた。こうした北海道市場と畿内市場との違いは、鯀魚肥が遠隔地市場向けの特産物として生産されたことにより規定されており、集散地市場であった大阪から遠く離れ、しかも鯀魚肥生産に特化したため遠隔地間商人の支配力が強かった生産地市場と、集散地市場の近郊に位置し、消費者にとって多数の購

入先が存在した消費地市場の質的な違いを示している。

ただし明治20年代には、廣海家の魚肥買入先は北前船商人か大阪・兵庫の肥料仲買商に限られており、生産地市場との間には地域分断性が残されていた。それが交通網・通信網の近代化のなかで廣海家も明治27年(1894)以降産地と直接取引を行うようになり、また生産地市場でも、銀行の手形割引や電信為替を利用して有力漁家が仕込商人を介さずに直接本州の商人と取引するようになった<sup>60)</sup>。こうした取引形態の近代化に伴い、一般的利潤率を形成するような段階までの地域間価格差の縮小と地域間価格の連動性、金利の低下と価格決定における恣意性の排除及び取引相手選択における地域分断性の解消に示される本格的な近代的全国市場が、鯀魚肥市場では明治30年代になって形成されたのであった。

(1997.5.12脱稿)

付記：本稿は、平成7・8年度文部省科学研究費補助金基盤研究(A)(1)「商人の活動からみた全国市場と域内市場」(研究代表者石井寛治)の研究成果の一部である。本稿を作成するにあたり、快く史料閲覧をお許しいただいた廣海啓太郎夫妻に深く感謝致します。また下記の機関に史料閲覧でお世話になった。合わせて感謝致します。

大阪大学経済学部経済史経営史資料室、大阪府貝塚市郷土資料室。

なお本稿と同様に田中市兵衛家と廣海惣太郎家の経営を比較した研究として、山田雄久「近代日本の肥料市場と廣海家の魚肥仕入活動」(前掲科研費基盤研究(A)(1)研究成果報告書、平成9年3月)がある。同じ時期に同じ素材で研究を始めたが、本稿が畿内市場を分析対象としたのに対し、山田は全国市場との関連に焦点をおいている。

59) 前掲拙稿「19世紀後半における北海道漁業構造の転換」。

60) 前掲拙稿「19世紀後半における北海道漁業構造の転換」。